

V 情報の提供

1 予察情報発表概要

(1) 病害虫発生予報

発行日		記載作物名	これから注意を要する病害虫 (その他の情報)
令和4年 4月20日 (水)	第1号	イネ、冬春トマト、スイカ、温州ミカン、 カーネーション	ビワを加害するカメムシ類の発生について (令和3年度における農作物の主要病害虫の発生状況 について)
5月18日 (水)	第2号	イネ、スイカ、ナシ、温州ミカン、 果樹共通	ネギハモグリバエ ナシ黒星病
6月15日 (水)	第3号	イネ、スイカ、サトイモ、ナシ、 温州ミカン、ビワ、果樹共通	ナシ黒星病の多発生に注意
7月20日 (水)	第4号	イネ、サツマイモ、ラッカセイ、秋冬ネギ、 サトイモ、野菜共通、ナシ、温州ミカン、 果樹共通	斑点米カメムシ類
8月17日 (水)	第5号	イネ、サツマイモ、ラッカセイ、秋冬ネギ、 夏秋トマト、サトイモ、野菜共通、ナシ、 温州ミカン、果樹共通	
9月20日 (火)	第6号	サツマイモ、秋冬ネギ、夏秋トマト、 野菜・花き共通、温州ミカン、果樹共通	
10月19日 (水)	第7号	夏秋トマト、冬キャベツ、秋冬ネギ、 イチゴ、温州ミカン、ビワ、 カーネーション、野菜・花き共通	ナシの黒星病 (ビワを加害する果樹カメムシ類の来年の発生について)
11月16日 (水)	第8号	冬春キュウリ、冬キャベツ、秋冬ネギ、 冬レタス、イチゴ、カーネーション、 野菜・花き共通	コナジラミ類・コナジラミ類伝染性ウイルス病(野菜・花 き)
12月20日 (火)	第9号	冬春キュウリ、冬春トマト、キャベツ、 秋冬ネギ、冬レタス、イチゴ、温州ミカン、 カーネーション、ストック、野菜・花き共通	
令和5年 1月18日 (水)	第10号	冬春トマト、冬春キュウリ、キャベツ、 冬レタス、イチゴ、施設野菜共通、 カーネーション、ストック、野菜・花き共通	春に向けてヒョウタンゾウムシ類に注意
3月15日 (水)	第11号	イネ、冬春トマト、春キャベツ、イチゴ、 野菜共通(施設)、ナシ、ビワ、カーネーション、 野菜・花き共通	

(2) 病害虫発生予察注意報

発行日	号数	タイトル
		(該当なし)

(3) 病害虫発生予察特殊報

発行日	号数	タイトル
令和4年 10月26日	第1号	アズキさび病の県内初発生について

(3) 病害虫発生情報

発行日	号数	タイトル
令和5年 3月3日	第1号	ウスモンミドリカスミカメによるレタスへの加害確認について

令和4年4月20日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	イネミズゾウムシ	やや少 予想発生時期 並	2月越冬量：やや少(-) 気象予報：気温高(+) 3月1日以降の有効積算温度 ：並	<ul style="list-style-type: none"> 常発地や昨年多発したほ場では、苗箱処理剤で薬剤防除する。 移植10日後ごろの飛来成虫数が2~3株に1頭以上の時は、成虫を対象に薬剤防除する。
	ヒメトビウンカ	少	2月越冬量：少(-)	<ul style="list-style-type: none"> イネ縞葉枯病を媒介する。 昨年、栽培期間中や再生株で縞葉枯病が多発したほ場では、苗箱処理剤で薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	並	2月越冬量：並	<ul style="list-style-type: none"> 越冬成虫の水田への侵入時期は5月下旬から6月である。 苗箱処理剤での防除では6月まで効果の持続する薬剤を選択する。
	イネドロオイムシ	並	前年の発生量：並	<ul style="list-style-type: none"> 常発地や昨年多発したほ場では、苗箱処理剤で薬剤防除する。 侵入最盛期(5月中旬ごろ)の飛来成虫数が10株に2頭以上の時は、薬剤防除する。
	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	並	冬季気温(12~2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値)：並 前年6月の発生量 ：やや多(+) 前年6月の被害株率 ：やや多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県HPに掲載されている以下の資料を参照する。 「STOP! ジャンボタニシ被害」 (リーフレット) https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	多	4月上旬発生量：多（+） 気象予報：日照時間少か並（+）	・ 被害茎葉は、施設外に持ち出し、適切に処分する。
	灰色かび病	多	4月上旬発生量 ：やや多（+） 気象予報：日照時間少か並（+）	・ 施設内の換気を良くし、湿度を下げる。 ・ 被害果や被害茎葉は施設外に持ち出し、適切に処分する。 ・ <u>令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照する。</u>
	コナジラミ類	並	4月上旬発生量 オンシツコナジラミ ：並〔発生なし〕 タバココナジラミ ：並〔発生なし〕 3月黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 日照時間少か並（-）	・ 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 ・ 栽培終了時にはハウス内を除草、トマトを抜根した状態でハウスを密閉し、完全に枯死させて本虫を死滅させる。
ス イ カ	つる枯病	やや多	4月上旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（+）	・ ほ場の排水を良くする。 ・ 多湿を防ぐため、トンネルの換気を適切に行う。
	アブラムシ類	並	4月上旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	・ ほ場周辺の雑草を除去する。 ・ 薬剤散布は葉裏まで十分かかるよう、丁寧にやる。 ・ 繁殖が早く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さずに早期防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	並	4月上旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	
温 州 ミ カ ン	そうか病	並	3月下旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（+）	・ 新梢の長さ1cmくらいが防除適期である。
	ミカンハダニ	やや少	3月下旬発生量：少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	・ 冬期防除を見合わせていた園地では4～5月に防除を行う。 ・ マシン油乳剤（97%）は使用時期で希釈倍率が変わるので注意する。
カ ー ネ ー シ ョ ン	ハダニ類	並	3月下旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	アザミウマ類	少	3月下旬発生量：少（-） 3月黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

ビワを加害するカメムシ類の発生について

ビワを加害する果樹カメムシ類は、チャバネアオカメムシを主体として、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシである。3種とも成虫で越冬し、越冬量が多い年には、5月中旬頃から6月にかけて収穫時期となるビワに多大な被害をもたらすことがある。

昨年10月にチャバネアオカメムシ早期発生予測モデルを用いて本年度の発生量を予測した結果、多発生と予想された（令和3年度病害虫発生予報第7号P7Ⅲその他の情報を参照）。

その後、冬季に実施した越冬量調査では、県内全体では平年並であった（令和3年度病害虫発生予報第11号P3を参照）が、安房地域だけで見た場合、過去10年の中で2014年と同程度の捕獲数となり多発生となった（図）。

4月から調査を開始した果樹予察灯は、例年同様、4月13日時点ではいずれの果樹カメムシ類も捕獲されていない。一方、館山市に設置しているチャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでは、3月下旬から少数であるが捕獲されている。

今後の果樹予察灯やフェロモントラップ、5月上旬に実施する桜樹での果樹カメムシ類払い落とし調査の結果は次回の発生予報で発表するが、平均気温が上昇すると果樹カメムシ類の活動が活発になり、ビワの果実被害が発生することが懸念される。4月14日に発表された向こう1か月の気象予報では、気温が平年より高くなる確率が70%と予報されており、今後本虫は多発生となる可能性が高いので注意が必要である。

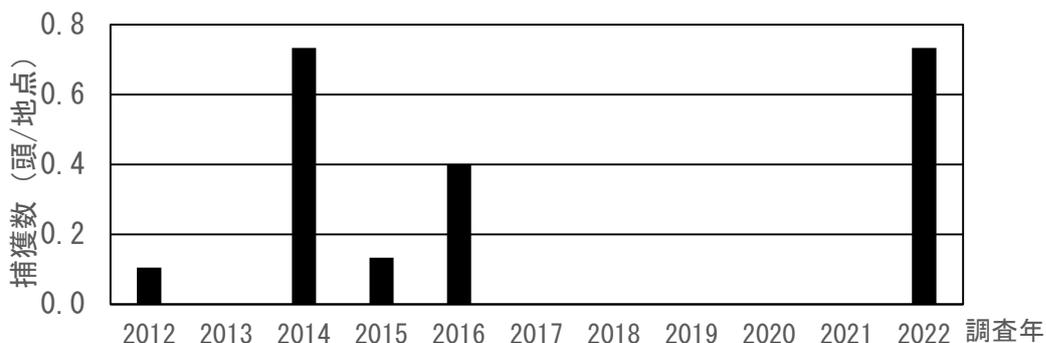


図 チャバネアオカメムシの越冬成虫調査結果

注1) 調査地点は安房管内5地点で、捕獲数は5地点の平均値である。

2) 調査は1㎡の範囲の落ち葉を集め、その中で越冬しているチャバネアオカメムシの数をカウントした。調査場所は1地点当たり3か所。

<防除対策>

1 果樹カメムシ類は、各種樹木の果実等を移動しながら吸汁しており、果樹園への飛来状況は地域や園により異なるので、園内をこまめに見回り、飛来を確認したら早急に薬剤防除を行う。

2 露地ビワは5月下旬から収穫期に入るため、収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。

表 ビワに適用のあるカメムシ類の主な防除薬剤

IRACの作用機構分類	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数
3A	テルスター水和剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで/2回
	テルスターフロアブル	3,000倍	
	ロディー水和剤	2,000倍	
4A	アドマイヤーフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで/2回
	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで/2回
	ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回

注1) 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

2) IRAC（殺虫剤抵抗性対策委員会）による殺虫剤作用機構分類は次のとおりである。

3A：ピレスロイド系 4A：ネオニコチノイド系

Ⅲ その他の情報

令和3年度における農作物の主要病害虫の発生状況について

○気象概況 (千葉市)

		日平均気温(°C)			月間降水量(mm、%)			月間日照時間(hr、%)		
		本年	平年	差	本年	平年	比	本年	平年	比
2021	1月	6.0	6.1	-0.1	41.0	67.5	61	182.4	191.6	95
	2月	9.2	6.6	2.6	60.5	59.1	102	218.9	165.3	132
	3月	13.2	9.6	3.6	129.5	111.3	116	174.0	167.5	104
	4月	15.3	14.5	0.8	115.5	110.4	105	223.7	177.0	126
	5月	20.0	18.9	1.1	110.0	122.3	90	155.3	180.5	86
	6月	22.8	21.9	0.9	114.5	150.9	76	142.7	126.9	112
	7月	26.0	25.7	0.3	395.0	136.5	289	178.4	162.7	110
	8月	27.7	27.1	0.6	263.5	115.7	228	193.6	189.4	102
	9月	22.8	23.8	-1.0	139.0	204.7	68	115.4	134.6	86
	10月	18.8	18.6	0.2	209.0	225.7	93	167.7	131.6	127
	11月	14.7	13.4	1.3	96.5	94.1	103	208.9	143.6	145
	12月	8.7	8.6	0.1	160.5	56.8	283	208.9	174.8	120
2022	1月	5.5	6.1	-0.6	15.5	67.5	23	199.2	191.6	104
	2月	5.9	6.6	-0.7	72.0	59.1	122	204.7	165.3	124
	3月	10.9	9.6	1.3	95.0	111.3	85	181.2	167.5	108

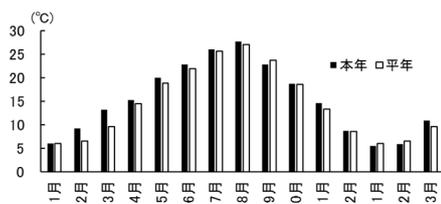


図1 日平均気温の月別平均値

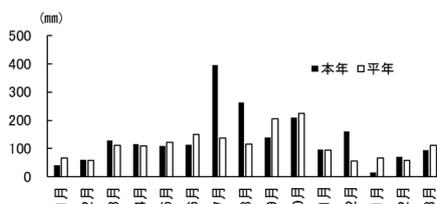


図2 月間降水量累計値(千葉市)

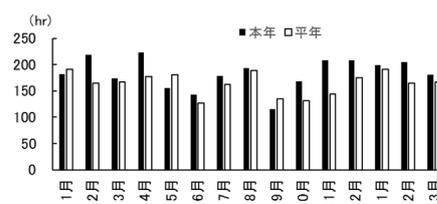


図3 月間日照時間累計値(千葉市)

気温：2、3月はかなり高く、4～6月は高く推移した。

降水量：7～8月、12月に多かった。

日照時間：2、4、11、12月はかなり多かった。

参考：梅雨入り：6月14日頃(平年6月7日) 梅雨明け：7月16日(平年7月19日)

○病害虫発生状況(巡回調査・フェロモントラップ調査)

1 イネ(4～8月上旬調査)

病害虫名	調査項目	育苗期	5月7日 基準日	6月2日 基準日	6月18日 基準日	7月2日 基準日	7月16日 基準日	7月30日 基準日	収穫期
いもち病	発病苗箱率	並							
	葉いもち発病株率			並	並	多	やや多	やや多	
	葉いもち上位2葉 発病葉率							多	
	穂いもち発病株率							多	多
ばか苗病	発病苗箱率	やや多							
スクミ リンゴガイ	被害株率		並	やや多					
	貝密度(/㎡)		やや多	やや多					
大型斑点米 カメムシ類	捕獲成幼虫数					多	やや多	やや多	やや少

2 普通作物

(1) サツマイモ（6～9月上旬調査）

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月
ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	並	並	並	多
ナカジロシタバ	寄生幼虫数	並	並	やや少	やや少
イモキバガ	被害葉率	並	並	やや少	並
イモキバガ以外	被害葉率	やや多	やや多	やや多	やや多

(2) ラッカセイ（7～9月上旬調査）

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月
茎腐病	発病株率	並	やや多	並
白絹病	発病株率	やや多	やや少	少
ヒョウタンゾウムシ類	被害株率	多	並	並

3 野菜

(1) スイカ（トンネル栽培）（4～6月上旬調査）

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月
うどんこ病	発病葉率	並	並	多
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	並	並	多
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	やや多	並	並

(2) サトイモ（6～9月上旬調査）

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月
汚斑病	発病葉率	並	並	やや多	並
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	並	やや多	並	並
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	やや多	並	並	並

(3) 夏秋トマト（6～9月下旬調査）

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月
萎凋症	萎凋株率	並	やや多	並	やや多
葉かび病	発病株率	並	並	やや多	やや多
灰色かび病	発病株率	並	多	並	並
灰色かび病	発病果率		並	やや多	やや多
黄化葉巻病	発病株率	並	やや多	やや多	多
うどんこ病	発病株率	並	やや多	多	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	多	やや多	やや多	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	並	多	多	多
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	並	並	多	多

(4) 冬春トマト（12～4月上旬調査）

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	やや多	並	多	多
灰色かび病	発病株率	並	やや多	並	やや少
灰色かび病	発病果率	並	並	並	やや少
黄化葉巻病	発病株率	並	多	多	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	並	並	並	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	やや多	並	多	多
ハスモンヨトウ	被害株率	やや多	並	並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	多	並	並	並

(5) 秋冬ネギ（7～12月上旬調査）

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さび病	発病度	多	並	並	並	やや多	並
べと病	発病株率	やや多	並	並	並	並	並
アブラムシ類	寄生株率	並	並	並	やや多	やや多	やや多
ハスモンヨトウ	被害株率	並	並	並	やや多	多	多
シロイチモジヨトウ	被害株率	並	並	多	多	多	多
ネギコガ	被害株率	並	やや多	並	やや多	多	多
ネギハモグリバエ	被害度	並	やや少	やや多	多	多	多

(6) 冬レタス（11～2月上旬調査）

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	並	やや少
オオタバコガ	幼虫寄生株率	並	並	並	並

オオタバコガは発生なしの並

(7) イチゴ（10～3月上旬調査）

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	やや少	やや少	並	少	少	やや少
灰色かび病	発病株率	並	並	並	並	少	少
アザミウマ類	成幼虫寄生株率	並	並	やや多	多	多	多
ハスモンヨトウ	被害株率	やや多	やや多	並	並	やや多	やや多
コナジラミ類	寄生株率	やや多	並	並	多	やや多	並

(8) 冬キャベツ（10～2月上旬調査）

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	やや多	並	やや多
黒腐病	発病度	並	並	やや多	並	やや多
腐敗病	発病株率	並	並	並	並	多
ヨトウガ	卵幼虫寄生株率	多	並	並	並	並

(9) 春キャベツ（12～4月上旬調査）

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
タマナギンウワバ	寄生幼虫数/25株	並	多	並	並

(10) 冬春キュウリ（11～2月上旬調査）

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
うどんこ病	発病葉率	並	やや少	並	多
べと病	発病葉率	やや少	並	多	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	多	並	並	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	やや多	並	少	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	多	やや多	やや多	並
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	多	多	多	多

(11) チョウ目害虫（フェロモントラップ調査）

病害虫名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ハスモンヨトウ	やや多	多	多	並	やや少	やや少	やや少	やや少	並	並	並	並
コナガ	多	多	多	並	並	並	並	並	並	やや多	やや多	並
シロイチモジヨトウ	-	多	多	多	やや多	多	多	多	多	多		

4 果樹

(1) ナシ（4～9月下旬調査）

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月
黒星病	発病果率	やや多	並	並	やや少	やや少	
炭疽病	発病新梢率	並	並	並	並	多	多
シンクイムシ類	被害果率	並	並	並	やや多	並	
ハマキムシ類	被害果率		並	並	多	多	
ハダニ類	寄生葉率	並	並	やや少	少	並	やや多
吸ガ類	被害果率		並	並	多	並	

(2) カンキツ（温州ミカン）（3～11月下旬調査）

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
かいよう病	発病葉率	多	多	多	やや多	やや多				
かいよう病	発病果率				多	並	並	並	並	
そうか病	発病葉率	やや多	やや多	やや多	やや多	並				
そうか病	発病果率				多	やや多	やや多	やや多	並	
黒点病	発病果率				並	並	やや少	多	多	
ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率	やや多	少	少	やや少	やや少	多	並	やや少	少
ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率	並	並	多	並	並	やや少	並	やや少	

(3) ピワ（3～5、9～10月下旬調査）

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月		9月	10月
灰斑病	発病葉率	並	並	並		少	やや少
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	並	並	並		並	並
カミキリムシ類	被害穴数	やや多	やや少	やや少		やや少	やや少
カメムシ類	寄生果率		並	並			

(4) 果樹共通：果樹カメムシ類（フェロモントラップ調査）

病害虫名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
カメムシ類	並	少	少	やや少	並	並	多	多
シンクイムシ類	やや多	やや多	やや多	多	やや多	多	多	やや多
ハマキムシ類	やや多	並	並	並	並	やや多	多	多

5 花き

(1) カーネーション（9～3月下旬調査）

病害虫名	調査項目	9月	10月	11月	12月	1月	2月
立枯病	発病株率	並	やや少	やや少	並	やや多	並
萎凋病	発病株率	やや多	並	やや少	やや少	やや少	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	やや多	やや多	やや多
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	やや多	並	並	並	並	並

(2) ストック（10～2月下旬調査）

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
(施設)コナガ	幼虫寄生株率	並	やや少	やや少	並	並
(露地)コナガ	幼虫寄生株率	やや少	やや少	やや少	やや少	並

菌核病、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ 発生認められず。

● 特殊報、警報、注意報の発表状況

1 特殊報

令和3年7月15日 第1号 サツマイモ基腐病の県内初発生について

令和3年8月20日 第2号 ウメ輪紋病の県内初発生について

農薬登録情報

イミダクロプリドの登録内容の変更

令和3年9月に以下のとおり登録内容が変更されたので、使用には十分注意する。

変更点が多岐にわたるため、使用する前には、農協や農業事務所、メーカーのホームページなどで変更点を確認してから使用する。

農薬名	変更内容			
	作物削除	落花後の 使用に限る	着果後の 使用に限る	施設における 使用に限る
アドマイヤー 1粒剤	豆類（種実、ただし、だいずを除く）、だいず、非結球あぶらな科葉菜類、なばな類、ズッキーニ			
アドマイヤー 水和剤	稲	りんご、なし、もも、ネクタリン、ぶどう（散布）、かき、うめ、すもも、くり	すいか、メロン	きゅうり（散布）、にがうり、ピーマン
アドマイヤー フロアブル	とうもろこし、ヤングコーン、ズッキーニ、非結球あぶらな科葉菜類（みずなを除く）	かんきつ、びわ、もも、なし、あんず、ぶどう、キウイフルーツ、つつじ類（散布）、デイゴ、れんこん、未成熟そらまめ	すいか、メロン、かぼちゃ	きゅうり、ピーマン、オクラ、未成熟ささが、食用ぎく、きく（葉）、ポインセチア
アドマイヤー 顆粒水和剤	とうもろこし、ズッキーニ、うり類（漬物用）、豆類（種実）、茶	かんきつ、りんご、うめ、すもも、なし、もも、ネクタリン、ぶどう、かき、げっきつ、とうがらし類、豆類（未成熟、ただし、未成熟そらまめを除く）、未成熟そらまめ	すいか、メロン、かぼちゃ	ピーマン、きゅうり、にがうり、きく
アドマイヤー プラスプロア ブル		かんきつ		

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：2月中旬、野菜：4月上旬、果樹・花き：3月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	イネミズゾウムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.10	1.55	0.23	前年7月調査 前年6月調査 前年6月調査 前年6月調査	
		イネゾウムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.17	0.26		0.31
		イネクロカメムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.03	0.10		0.00
	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ スクミリンゴガイ	25株当たり寄生成幼虫数	0.03	0.71	0.17		
		畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	0.83	2.46	2.02		
		畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	0.54	2.96	1.15		
		25株当たり寄生成虫数	0.13	0.43	0.37		
		被害株率(%)	2.13	0.84	4.06		
	1㎡当たり貝数	0.25	0.19	0.70			
冬春トマト (海匠、長生)	うどんこ病	発病株率(%)	9.60	1.91	2.00		
		灰色かび病	発病株率(%)	19.60	11.72		44.00
		発病果率(%)	0.10	0.30	0.61		
		果実発病度	0.70	1.73	3.90		
	葉かび病	発病株率(%)	0.00	0.20	0.40		
		アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.08		0.00
		黄色粘着トラップ誘殺数	0.00	0.14	0.43		
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	1.00	0.40		
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	0.08	0.00		
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	0.22	3.65	4.82		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00		
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.40	0.32	1.60		
アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00			
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率(%)	0.00	1.62	3.00		
		黒腐病	発病度(%)	0.00	0.10		0.00
	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	1.84	15.00		
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	4.80	1.59	0.00		
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.21	0.50		
トンネルスイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.16		0.00
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.08	0.20		
	ウリハムシ	寄生成虫数	0.00	0.00	0.00		
ハウススイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00		0.00	2021~	
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.40			0.20
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00		0.00		
	ウリハムシ	寄生成虫数	0.00		0.00		
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.00	0.20	0.60		
	かいよう病	発病度	0.04	0.04	0.36		
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	4.98	4.40		
ビワ(安房)	灰斑病	発病葉率(%)	0.00	4.48	5.25		
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.08	0.25		
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率(%)	0.00	1.34	0.00		
		立枯病	発病株率(%)	1.60	1.02		1.60
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	1.14	0.00		
		被害株率(%)	0.00	11.76	9.60		
		黄色粘着トラップ誘殺数	1.45	6.00	2.50		
	ハダニ類	雌成虫寄生株率(%)	0.00	2.02	8.80		

トラップ月間誘殺数(3月)

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数(頭/日)			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.4	0.7	2.0	
性フェロモン	ハスモンヨトウ	海匠	0.0	0.1	0.2	

○気象予報

4月14日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

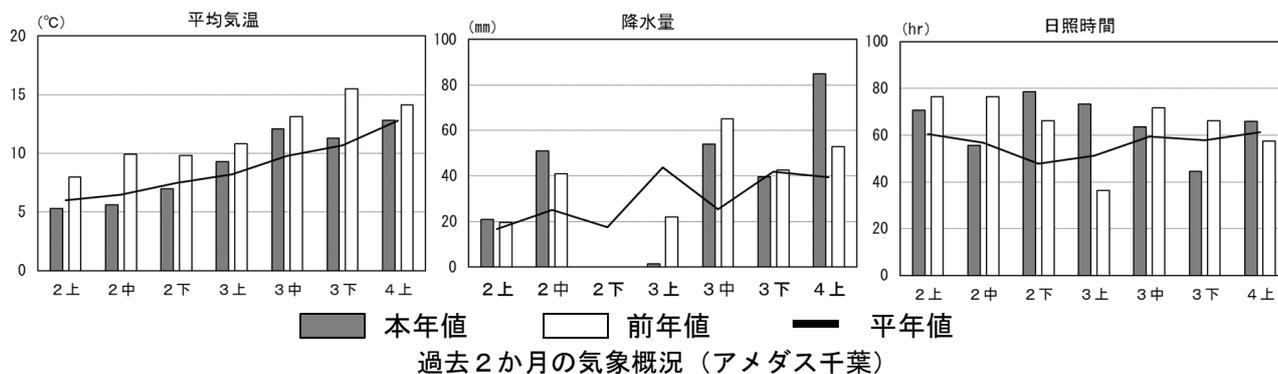
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(4月16日～5月15日銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	16.8	15.7	16.6
降水量(mm)	101.6	116.8	144.6
日照時間(hr)	175.6	181.8	179.4

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は5月18日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和4年5月18日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	育苗期発生量：並〔発生なし〕 気象予報：気温並 降水量並	・ ほ場に置いた補植用置き苗は、発生源となりやすいので早めに処分する。
	ばか苗病	多	発病苗箱率：多(+) 苗発病度：多(+)	・ 千葉県ホームページに掲載の下記情報を参照する。 「イネばか苗病の徹底防除にご協力ください」 (https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/network/field-h31/sui-2019-02.html)
	イネミズゾウムシ	並	2月越冬量：やや少(-) 5月上旬被害株率 ：やや多(+)	・ 移植から日数が経過して苗箱処理剤の効果が減衰する等の理由から、移植10日後以降に成虫が多数飛来した時には薬剤防除する。
	イネドロオイムシ	並	5月上旬被害株率 ：やや多(+) 気象予報：降水量並	・ 越冬成虫の本田侵入最盛期(5月中旬ごろ)の成虫数が10株に2頭以上の場合、又は産卵最盛期(5月下旬ごろ)の卵塊数が1株に1卵塊以上の場合には薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	やや多	5月上旬発生ほ場率 : やや少 (-) 5月上旬1㎡当たり平均個体数 : 多 (+) 5月上旬被害株率 : やや多 (+) 気象予報 : 気温並	<ul style="list-style-type: none"> 本貝が生息するものの現時点で被害の無い水田においても、今後の動向に注意し4葉期に達するまでの浅水管理(4cm以下)や薬剤防除を行う。 千葉県ホームページに掲載の以下チラシを参照する。 「STOP! ジャンボタニシ被害」 (https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf)
	ヒメトビウンカ	少	2月越冬量: 少 (-) 気象予報 : 気温並	<ul style="list-style-type: none"> 縞葉枯ウイルスを媒介する。 発生が多い年には飛来期の6月上中旬頃及び出穂期頃に1~2回薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	並	2月越冬量: 並 気象予報 : 気温並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が多い場合には、成虫飛来期の5月中旬~6月に薬剤防除する。
ス イ カ	つる枯病	並	5月上旬発生量: 並 [発生なし] 気象予報 : 気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ほ場の排水を良くする。 多湿を防ぐため、トンネルの換気を十分行う。
	アブラムシ類	並	5月上旬発生量: 並 気象予報 : 気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤散布は葉裏まで十分かかるよう、丁寧に行う。 繁殖が速く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さず早期防除する。
	ハダニ類	やや多	5月上旬発生量: 多 (+) 気象予報 : 気温並 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	黒星病	多	4月下旬発生量：多（+） 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 罹病した葉や果実は、伝染源となるので見つけ次第除去し、適切に処分する。 <u>PO「これから注意を要する病害虫」も参照する。</u>
	アブラムシ類	並	4月下旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖が速く、短時間で高密度となるため、防除適期を逃さず早期防除する。
温州ミカン	そうか病	並	4月下旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 防除適期は落弁直後なので、適期に薬剤散布を行う。
	ミカンハダニ	並	4月下旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生の多いほ場（寄生葉率30%以上）では薬剤防除する。
果樹共通	カメムシ類	やや多	越冬成虫数：並 5月サクラ樹払い落とし調査 ：やや多（+） 4月フェロモントラップ誘殺数 ：やや多（+） 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

ネギハモグリバエ

ネギハモグリバエは、成虫による葉の吸汁痕や産卵痕のほか、葉の内部に産卵され孵化した幼虫が葉肉を食害し、白い不規則な線状の食害痕を発生させるなどの被害をもたらす（写真1）。

多くの都府県で、従来のネギハモグリバエの遺伝子型（以下「A系統」と表記）とは異なる遺伝子型である別系統（以下、「B系統」と表記）の発生が確認され、特殊報が発表されている。本県でもネギハモグリバエB系統が確認され、令和元年9月に特殊報を発表した。

B系統は、A系統と比較して、葉に著しい食害痕がみられたり、葉が白化したようになるなど被害が大きい（写真2）。

〈発生生態と被害〉

○ ネギハモグリバエA系統及びB系統の形態による識別は困難である。

両系統とも成虫の体長は約2mmで、胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色である（写真3）。幼虫は、うじ虫状で、成長すると体長約4mmに達する（写真4）。蛹は体長約3mmの褐色で俵状である。

○ 両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表又は土中で蛹となる。

○ B系統は、A系統と比較して、一葉あたりの幼虫数が多い傾向にあり、一葉に複数頭の幼虫が、葉の内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害する。B系統の初期の食害痕は、従来のA系統と同様で、不規則な白線状であるが、進展すると近接した食害痕同士が結合し、葉全体に及ぶと葉が白化したようになる。



写真1 従来系統（A系統）による被害



写真2 別系統（B系統）による被害



写真3 別系統の成虫



写真4 別系統の幼虫

※写真は千葉県農林総合研究センター原図

〈防除法〉

- 1 両系統を形態で識別することは困難で、塩基配列データをその都度調べるのも現実的ではない。したがって、本虫の発生を認めたら、系統に関わらず、下表を参考にネギハモグリバエに適用のある薬剤により防除する。定植時などにおける薬剤処理とあわせて、発生初期の防除を徹底する（現時点では、系統間の薬剤感受性の差は明確でない）。
- 2 被害葉及び収穫残さは本虫の発生源となるので、残さは、ほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋める等適切に処分する。

表 ネギのネギハモグリバエ防除に使用できる主な農薬（農薬の登録内容は令和4年5月1日現在。掲載農薬は、令和4年版農作物病害虫雑草防除指針（千葉県）から抜粋。）

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数※1	有効成分	IRACコード※2
スタークル粒剤／アルバリン粒剤	6kg／10a	株元散布	定植時	1回以内	ジノテフラン	4A
	6～9kg／10a	株元散布	生育期（但し、収穫3日前まで）	2回以内	ジノテフラン	4A
ベストガード粒剤	5g／培土ℓ	育苗培土混和	は種時	1回以内	ニテンピラム	4A
	6kg／10a	植溝処理 土壌混和	定植時	1回以内		
	6kg／10a	株元処理	収穫前日まで	3回以内		
ベリマークSC	400倍	灌注	育苗期後半～定植当日	1回以内	シアントラニリプロール	28
スタークル顆粒水溶剤／アルバリン顆粒水溶剤	50倍	灌注	定植前日～定植時	1回以内	ジノテフラン	4A
カスケード乳剤	4000倍	散布	収穫14日前まで	3回以内	フルフェノクスロン	15
アフーム乳剤	1000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	エマメクチン安息香酸塩	6
リーフガード顆粒水和剤	1500倍	散布	収穫7日前まで	2回以内	チオシクラム	14
アクタラ顆粒水溶剤	1000～2000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内	チアメトキサム	4A
ディアナSC	2500～5000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	スピネトラム	5

※1 名称が異なる薬剤でも、同じ有効成分が含まれることがある。そのため、製品ラベル等を十分に確認し、含有する有効成分の種類ごとの総使用回数も使用基準を超えないようにすること。

※2 IRACコード：殺虫剤の作用の仕組みの分類を表すものである。害虫の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

注：農薬の使用にあたっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

ナシ黒星病

黒星病の主な伝染源は、前年の罹病落葉と、腋花芽のりん片病斑である。

昨年 10 月実施の秋型病斑調査での罹病葉率は平年並、2 月実施の腋花芽りん片調査での罹病芽率は平年よりやや少ない発生程度であった。

しかし、本年 4 月実施の発病状況調査での発病果率（芽基部及び花こうの病斑）は、0.32% であり、平年（平年値 0.11%）より多く、過去 11 年と比べて最も多い発生となった。

これは、4 月の中旬以降（千葉市の幸水の満開日：4 月 12 日）定期的な降雨があったことが要因として考えられる。

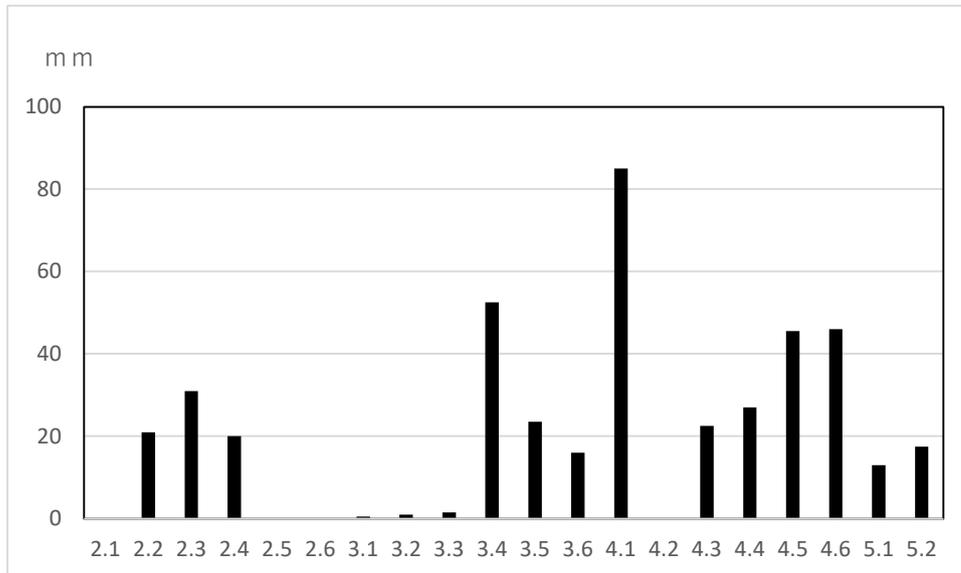


図 降水量（アメダス千葉、月半旬）

5 月 12 日に発表された向こう 1 か月の気象予報では、気温及び降水量はほぼ平年並みと発表されている。このため、梅雨時期に向けて感染好適条件が続くと予想されるので注意が必要である。

<感染好適条件>

- 1 病原菌の生育適温は、15～25℃（最適は20℃）である。
- 2 降雨等による一定の濡れ条件下（20℃の場合、濡れ時間が9時間以上）で感染する。
- 3 果実の本病の感受性は、開花直後から20日頃が高い。ただし、「幸水」は開花55から90日にも感受性が高くなるので注意する。

<防除法>

- 1 本病の病斑の除去がその後の蔓延を防止するうえで重要なので、発病葉、発病果実等は見つけ次第除去し、適切に処分する。なお、幼果はどの品種も感染しやすいので注意する。
- 2 薬剤散布は、かけむらのないよう、ていねいに行う。
- 3 それぞれの園での発生状況や今後の気象状況に留意し、防除適期を逃さないようにする（表1）。
- 4 耐性菌対策のために、同系統の薬剤の連用は避ける（表2）。なお、薬剤の選定にあたって、疑問点等がある場合は、普及指導員、営農指導員に相談すること。

表1 5月中旬から6月上旬の黒星病防除薬剤
(病害虫防除指針(幸水・豊水・その他赤ナシ)から抜粋)

時 期	薬 剤 名	FRACの作用機構 分類コード	希 釈 倍 数	使用時期/使用回数
5月中旬	ベルコートフロアブル(注1)	M7	1500倍	収穫14日前まで/5回
5月下旬	有機銅フロアブル(注2)	M1	1000倍	収穫3日前まで/9回
6月上旬	ベルコートフロアブル	M7	1500倍	収穫14日前まで/5回

注1 黒星病の多発生が心配される場合は、ユニックス顆粒水和剤47の2000倍液(収穫21日前まで/3回)とベルコートフロアブル1500倍液を追加散布する。

注2 有機銅フロアブル剤には「キノンドー」「ドキリン」がある。

表2 黒星病防除に使用する各薬剤系統の種類、使用回数の目安(病害虫防除指針から抜粋)

系統名	FRAC コード	防除指針 での使用 回数	殺菌剤の例(商品名)
DMI剤	3	3	マネージDF、スコア顆粒水和剤、インダーフロアブル、アンビルフロアブル、オンリーワンフロアブル、オーシャイン水和剤、オルフィンプラスフロアブル(注)、アクサーフロアブル(注)
QoI剤	11	2	アミスター10フロアブル、ストロビードライフフロアブル、ナリアWDG(注)、ファンタジスタ顆粒水和剤、スクレアフロアブル
AP剤	9	1	フルピカフロアブル、ユニックス顆粒水和剤47
SDHI剤	7	1	ナリアWDG(注)、アフェットフロアブル、パレード15フロアブル、フルーツセイバー、オルフィンプラスフロアブル(注)、ネクスターフロアブル、アクサーフロアブル(注)、カナメフロアブル、セルカディスDフロアブル(注)

注 ナリアWDGはQoI剤とSDHI剤の混合剤、オルフィンプラスフロアブル、アクサーフロアブルはDMI剤とSDHI剤の混合剤である。セルカディスDフロアブルはSDHI剤とジチアノンの混合剤である。

(参考)

DMI剤 : 黒星病、赤星病に卓効を示すが、国内で耐性のある黒星病菌が発生した。

QoI剤 : 黒星病、炭疽病に高い防除効果を示す。国内で耐性のリンゴ黒星病菌、炭疽病菌が発生した。

AP剤 : 黒星病に高い防除効果を示す。コムギ灰色かび病菌及び国外のリンゴ黒星病菌の報告があるが、ナシでは報告はない。

SDHI剤 : 黒星病、赤星病に高い防除効果を示す。ナシでは耐性菌の報告はないが、キュウリ等では流通した翌年から耐性菌が問題になる等、耐性菌の発生リスクが高い薬剤と考えられる。

Ⅲ 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：4月中旬～5月上旬、スイカ：5月上旬、果樹：4月下旬、果樹カメムシ類：5月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	苗の発病度	0.00	0.00	0.00	2月調査
		もみ枯細菌病	0.23	0.22	0.00	
	苗立枯病	苗の発病度	0.02	0.32	0.17	
		ばか苗病	2.35	0.29	0.56	
	イネヒメハモグリバエ	被害株率(%)	0.00	0.08	0.00	
		畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.10	1.55	0.23	
	イネミズゾウムシ	成虫寄生株率(%)	3.43	1.64	1.54	
		被害株率(%)	13.71	5.26	4.92	
	イネゾウムシ	雑草地すくい取り成虫数	-	-	1.09	
		成虫寄生株率(%)	0.19	0.08	0.12	
	イネドロオウムシ	被害株率(%)	0.26	0.26	0.68	
		成幼虫蛹寄生株率(%)	0.32	0.14	0.00	
	スクミリンゴガイ	被害株率(%)	0.39	0.10	0.00	
		雑草地すくい取り成虫数	-	-	0.09	
ヒメトビウンカ	発生ほ場率(%)	6.45	9.47	13.85		
	1㎡当たり個体数	0.62	0.13	0.17		
イネクロカメムシ	被害株率(%)	0.43	0.18	0.00		
	畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	0.83	2.46	2.02		
スイカ (山武・印旛)	つる枯病	雑草地すくい取り成虫数	-	-	0.00	
		畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.03	0.10	0.00	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
		発病果率(%)	0.32	0.11	0.26	
	赤星病	発病葉率(%)	0.00	0.06	0.00	
		被害葉率(%)	0.00	0.03	0.00	
アブラムシ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
	成幼虫寄生新梢率(%)	0.56	1.07	0.09		
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.00	0.02	0.04	
		発病度	0.00	0.04	0.16	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	5.60	6.38	0.60	
		幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	0.25	2.18	1.00	
		成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.43	0.00	
果樹共通	果樹カメムシ類 (安房)	サクラ樹払い落とし虫数 (1網あたり捕獲成虫数)	2.28	1.55	0.19	
	チャバネアオカメムシ (県内全域)	越冬成虫数(頭/3㎡)	0.37	0.51	0.02	

トラップ月間誘殺数(4月) *種類別の単位の違いに注意

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数(*)			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	83.3	11.8	0.7	頭/月
	ツマグロウヨコバイ	〃	1.3	0.0	0.3	
	イネヨトウ	〃	0.0	0.3	0.3	
	ニカメイガ	〃	0.0	0.1	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	2	0.1	0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	6	0.2	0	
	ツヤアオカメムシ	〃	7	1.4	0	
	カメムシ類	〃	15	1.7	0	

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（*）			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠	6.2	2.4	7.0	頭/日
	ハスモンヨトウ	県内全域	0.3	0.7	1.4	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.3	0.0	0.4	
	オオタバコガ	県内全域	0.2	0.2	0.3	
	タバコガ	県内全域	0.0	0.0	0.0	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	3.0	1.2	1.7	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	3.0	1.2	1.7	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	1.3	1.0	0.8	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.3	1.1	1.8	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.6	2.1	2.6	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	1.1	0.6	0.4	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.2	0.1	0.0	
	クサギカメムシ	〃	0.0	0.1	0.0	
	カメムシ類	〃	1.3	0.7	0.4	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	〃	0.1	0.6	0.2	

○気象予報

5月12日気象庁発表

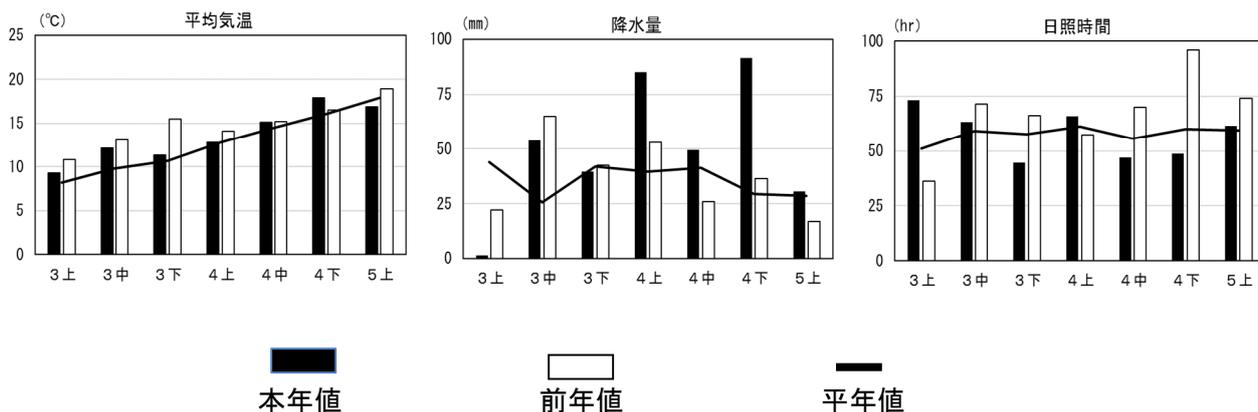
関東甲信地方における向こう1か月の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	40	30	30
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月の各気象要素の平年値
(5月14日～6月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	19.5	18.0	19.1
降水量(mm)	126.7	138.9	160.4
日照時間(hr)	177.7	189.4	184.0



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は6月15日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和4年6月15日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	6月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：降水量並 日照時間並 気温並か高(-)	<ul style="list-style-type: none"> 発病を確認次第、薬剤防除する。 常発地では、例年6月中下旬が初発時期であるため、予防防除を行う。
	紋枯病	並	6月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：降水量並 気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> 粒剤による薬剤防除は出穂20日前ごろに行う。 出穂15日前ごろの発病株率が15%以上の場合、粉剤、水和剤で穂ばらみ後期までに薬剤防除する。
	イネドロオイムシ	並	6月上旬発生量：並 気象予報：降水量並	
	スクミリングガイ(ジャンボタニシ)	やや多	6月上旬発生量：やや多(+) 6月上旬被害株率：並	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県ホームページに掲載の以下のチラシを参照する。 「STOP! ジャンボタニシ被害」 (https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf)
	イネクロカメムシ	並	5月予察灯誘殺数：少(-) 6月上旬発生量：少(-) 気象予報：気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> 成虫飛来期であり、発生が多い場合には薬剤防除する。
	ヒメトビウンカ	並	5月予察灯誘殺数：並[発生なし] 6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> 縞葉枯病を媒介する。 成虫飛来期であり、発生が多い場合には薬剤防除する。
	セジロウンカ	並	5月予察灯誘殺数：並[発生なし] 6月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> 7月上中旬ごろに株当たり10頭以上寄生していた場合は、薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
スイカ	うどんこ病	並	6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高（－） 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> トンネルの換気を十分に行い、通風を良くする。 病勢が進展してからの防除は困難であるため、発病ごく初期から薬剤防除する。 薬剤防除の際は、収穫前使用日数に注意し、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。 令和3年度病害虫発生予報第3号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。
	アブラムシ類	多	6月上旬発生量：多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤散布は、葉裏にも十分かかるよう、丁寧に行う。 ほ場により発生状況が大きく異なるため、収穫まで日数のあるほ場では、こまめな観察と早期防除に努める。
	ハダニ類	やや多	6月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	
サトイモ	アブラムシ類	やや多	6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤散布は、葉裏にも十分かかるように丁寧に行う。
	ハダニ類	並	6月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	
ナシ	黒星病	やや多	5月下旬発生量：やや多（＋） 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 被害葉、被害果は伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。
	シンクイムシ類	やや多	5月下旬発生量：並 [発生なし] 5月フェロモントラップ誘殺数：やや多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 加害が見られる場合は、薬剤防除する。
	ハマキムシ類	やや多	5月下旬発生量：やや少（－） 5月フェロモントラップ誘殺数：多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	
	アブラムシ類	並	5月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	そうか病	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 発生が多い園では、梅雨期にも薬剤防除する。
	ミカンハダニ	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 夏期（6～8月）防除の判断は、寄生葉率 30%を目安とする。
ビワ	灰斑病	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 落葉に付着した病原菌が次の発生源となるため、集めて園外に持ち出し、適切に処分する。
果樹共通	カメムシ類	やや多	5月下旬発生量：やや多（+） 5月予察灯誘殺数：並 5月フェロモントラップ誘殺数：やや多（+） 気象予報：気温並か高（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防虫ネット（9mm クロスまたは4mm 以下の網目）等により、物理的な防除対策を行う。 ・ 寄生が見られる場合は、収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。 ・ カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。園内外をこまめに見回り、発生を確認次第、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

II これから注意を要する病害虫

ナシ黒星病の多発生に注意

5月18日に発表した病害虫発生予報第2号では、ナシ黒星病について予想発生量を「多」とし、「これから注意を要する病害虫」で注意喚起し、防除情報を記載したところである。

5月下旬の巡回調査でも黒星病の発病葉率は2.41%（平年値1.18%）、発病果率は1.82%（平年値0.96%）とやや多い状態が続いている。6月3日付で県担い手支援課が黒星病の今後の防除に関する情報を発表したため、ここに薬剤防除法について転載する。

時期	従来の防除	黒星病多発園での防除 6月いっぱいには散布間隔を約7日に短縮
6月上旬	ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回	・ 上旬：ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回
6月中旬	フロンサイドSC(保) (2,000倍液)30日前/散布1回	・ 中旬①： フロンサイドSC(保) (2,000倍液)30日前/散布1回 ・ 中旬②：追加散布 オーソサイド水和剤80(保) (1,000倍液)3日前/9回 または ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回 または ユニックス顆粒水和剤47(治) (2,000倍液)21日前/3回と ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回 の2剤を混用散布 (5月中旬にユニックス顆粒水和剤47を 散布していない場合に限る)
6月下旬	ストロビードライフロアブル(治) (2,000倍液)前日/3回 オーソサイド水和剤80(保) (1,000倍液)3日前/9回	6月下旬～7月中旬 ・ 左記の「従来の防除」と同様、治療剤に必ず保護殺菌剤を混用して散布する。 ・ 幸水では、満開後75～90日の果実が黒星病に感染しやすい(今年は6/26～7/11) ・ 6月下旬以降の薬剤散布間隔は10日(感染しやすい時期を確実にカバーする)
7月上旬	アンビルフロアブル(治) (1,000倍液)7日前/3回 ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回	
7月中旬	フルーツセイバー(治) (1,500倍液)前日/3回 オーソサイド水和剤80(保) (1,000倍液)3日前/9回 まくぴか(10,000倍液)	

※散布水量は10aあたり250Lを目安に、十分な量を散布する。

※※(保)は保護殺菌剤、(治)は治療剤。

Ⅲ 参考資料

○ 主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・サトイモ・スイカ：6月上旬、果樹：5月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	葉いもち発病度	0.00	0.01	0.00	
	ばか苗病	発病株率(%)	0.11	0.06	0.06	
	紋枯病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	イネヒメハモグリバエ	被害度	0.59	0.30	0.72	
	イネミズゾウムシ	被害度	9.10	8.03	10.76	
	イネゾウムシ	被害度	1.24	1.93	3.71	
	イネドロオイムシ	被害度	1.89	2.89	0.75	
	スクミリンゴガイ	被害株率(%)	1.26	1.16	2.49	
		1㎡当たり個体数	0.44	0.21	0.22	
		発生ほ場率(%)	12.86	13.17	14.71	
	セジロウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.15	0.01	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫数	0.01	0.01	0.01	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.35	0.46	0.21	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.00	0.01	0.00	
コバネイナゴ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.03	0.05	0.04		
サツマイモ (印旛、香取)	立枯病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	0.60	0.34	0.20	
スイカ (山武、印旛)	うどんこ病	発病葉率(%)	0.20	2.90	26.60	
		発病株率(%)	0.40	4.52	40.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	10.80	4.36	10.40	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	6.80	4.04	4.60	
サトイモ (印旛、香取、君津)	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	34.5	33.2	24.7	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	7.6	12.5	19.3	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	2.41	1.18	0.65	
	赤星病	発病葉率(%)	0.03	0.24	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.00	0.06	0.03	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.09	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.35	4.97	0.00	
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.01	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.08	0.13	0.12	
	かいよう病	発病度	0.00	0.02	0.16	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	1.00	5.84	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	1.50	0.20	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.66	2.00	
	カメムシ類	叩き落とし虫数	0.40	3.24	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	0.75	2.00	0.50	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.10	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.58	0.25	

トラップ月間誘殺数（5月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考 *
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	8.0	32.7	23.7	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	フタオビコヤガ	〃	0.0	0.1	0.3	
	イネヨトウ	〃	2.0	7.0	14.3	
	ニカメイガ	〃	2.0	0.9	0.3	
	イネクロカメムシ	〃	6.7	24.3	25.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	1.0	1.0	0.3	
	アカスジカスミカメ	〃	1.7	15.9	15.0	
(果樹カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	5.0	5.1	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.3	0.1	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	0.4	0.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	1.0	2.9	0.0	頭/月
	オオビロウドコガネ	〃	1.0	10.9	5.7	
	ドウガネブイブイ	〃	0.0	0.1	0.0	
	オオクロコガネ	〃	0.0	0.2	0.3	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	3.0	1.2	1.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	1.0	1.1	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	14.0	19.0	0.0	
	カメムシ類	〃	18.0	21.3	1.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.2	0.5	0.2	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.5	0.1	0.3	
	コナガ	海匝	4.7	6.3	11.2	
	ハスモンヨトウ	県内全域	1.1	2.0	5.6	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.1	0.1	0.4	
	オオタバコガ	県内全域	0.7	0.9	0.6	
	タバコガ	県内全域	0.1	0.2	0.3	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	0.8	0.5	0.7	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	0.8	0.5	0.7	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	2.0	0.6	1.0	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.9	1.5	1.3	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	3.9	2.2	2.3	
	チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	6.6	5.4	
ツヤアオカメムシ		〃	0.5	0.6	0.0	
クサギカメムシ		〃	0.3	0.4	0.0	
カメムシ類		〃	7.5	6.4	0.7	
マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）		〃	0.5	0.9	0.1	

* 種類別の単位の違いに注意

○気象予報

6月9日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

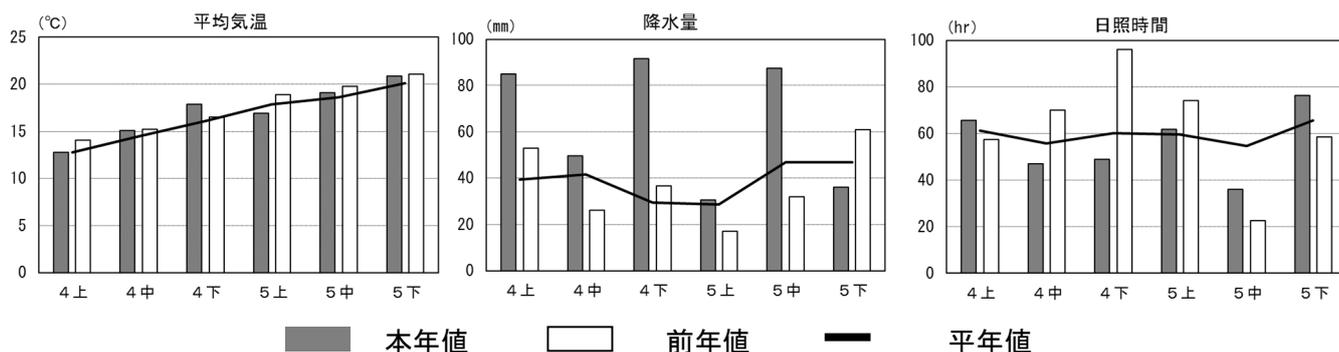
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(6月11日～7月10日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	23.2	21.2	22.8
降水量(mm)	166.3	176.5	229.7
日照時間(hr)	122.7	133.2	130.0



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は7月20日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

令和4年7月20日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (穂いもち)	やや多	7月上旬葉いもち発生量 : やや多 (+) 気象予報: 気温高 (-) 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 葉いもちの発生しているほ場では、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除する。さらに多発する場合は穂揃期にも薬剤防除する。 令和3年度病害虫発生予報第4号P5「これから注意を要する病害虫」を参照する。
	紋枯病	やや多	7月上旬発生量 : やや多 (+) 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 穂ばらみ期に発病株率15%以上の場合、薬剤防除する。 令和2年度病害虫発生予報第3号P4「これから注意を要する病害虫」を参照する。
	ごま葉枯病	やや多	7月上旬発生量: やや多 (+) 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が多い場合は薬剤防除する。
	斑点米カメムシ類	大型のカメムシ類	並	7月上旬本田発生量: 並 7月上旬雑草地発生量: 並 気象予報: 気温高 (+) 降水量並
カスミカメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメ)		やや多	7月上旬本田発生量: 並 7月上旬雑草地発生量 : やや多 (+) 気象予報: 気温高 アカヒゲホソミドリカスミカメ (-) アカスジカスミカメ (+) 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	イネクロカメムシ	少	7月上旬発生量：少（－） 6月予察灯誘殺数：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 気温の高い日中は株元において薬剤がかかりにくいいため、薬剤防除は朝や夕方に行う。
	セジロウンカ	並	7月上旬発生量：やや少（－） 6月予察灯誘殺数：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋）	・ 7月中旬頃に株当たり 10 頭以上寄生していた場合には薬剤防除する。
	ヒメトビウンカ	並	7月上旬発生量：並 6月予察灯誘殺数：やや少（－）	・ イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 ・ 周辺イネ科植物から6月上旬頃本田に侵入し、産卵・増殖する。 ・ 幼穂形成期を迎えていない水田でイネ縞葉枯病が多発している場合は、薬剤防除する。
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	7月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。
	イモキバガ	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
ラッカセイ	白絹病	並	7月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 病株は周囲の表土と共に除去する。 ・ 収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。
	褐斑病	やや少	7月上旬発生量：少（－） 気象予報：降水量並	・ 多発ほ場では薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	さび病	やや少	7月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 発生初期から薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 高温乾燥期に多発しやすい。 ・ 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌処理と併せて、即効性が期待できる薬剤の地上部処理などにより、防除する。
	ネギコガ	並	7月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 高温乾燥期に多発しやすい。 ・ 幼虫は、葉内に侵入して食害するので、初期防除に努める。
サトイモ	アブラムシ類	やや多	7月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 薬剤防除は、葉裏にも十分かかるようにいねいに行う。
	ハダニ類	やや多	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	6月フェロモントラップ誘殺数： やや少（－） 7月上旬発生量 秋冬ネギ：並 [発生なし] サトイモ：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 ・ 薬剤防除の場合、幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に行う。
	オオタバコガ	やや多	6月フェロモントラップ誘殺数： 並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 幼虫は見つけ次第捕殺する。 ・ 施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	黒星病	やや多	6月下旬発病果率 : やや多 (+) 気象予報: 気温高 (-) 降水量並	・ 被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
	シンクイムシ類	やや多	6月下旬発生量 : 並 [発生なし] 6月フェロモントラップ誘殺数 : 多 (+) 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	・ 加害が見られる場合は、収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。
	ハマキムシ類	並	6月下旬発生量: 並 6月フェロモントラップ誘殺数 : やや少 (-) 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	
	ハダニ類	並	6月下旬発生量: 並 気象予報: 気温高 (+) 降水量並	・ 増殖が速いので、発生初期から防除する。 ・ 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を助長しないよう、同一系統の剤は年1回の使用とする。
温州ミカン	そうか病	並	6月下旬発生量: 並 気象予報: 気温高 (-) 降水量並	・ 被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
	ミカンハダニ	やや多	6月下旬発生量: やや多 (+) 気象予報: 気温高 (-) 降水量並	・ 夏期(6~8月)防除の判断は寄生葉率で30%を目安とする。
果樹共通	カメムシ類	多	6月フェロモントラップ誘殺数 : 並 6月果樹予察灯誘殺数 : 多 (+) 気象予報: 気温高 (+)	・ カメムシ類の発生量は地域差があるため、果樹園への飛来状況は地域や園地により異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

斑点米カメムシ類

(1) 斑点米カメムシ類とは

斑点米カメムシ類は、体長5mm程度のカスミカメムシ類と、体長10mm以上の大型斑点米カメムシ類が存在する(写真1)。斑点米カメムシ類は、種類によって子実の加害時期や加害部位が異なるため、原因となるカメムシ種を特定し、適切な対策を取ることが重要である。

①カスミカメムシ類

口器が弱く籾を通して刺すことができないため、登熟初期～中期に頂部を加害し、頂部加害型斑点米を生じる。また、後期には鉤合部又は籾割部から加害し、側部加害型斑点米を生じる。本種群による登熟初期の加害は、玄米へのダメージが小さいため、不稔米となりにくく、斑点米を生じやすい。

②ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ

口器が強く籾を貫通して加害できるため、全期間を通じて無差別加害型斑点米を生じる。また、登熟後期は鉤合部から加害が増加し、側部加害型斑点米を生じる。登熟初期～中期の加害は、玄米へのダメージが大きいため不稔米となりやすく、減収の原因となる。登熟後期の加害により斑点米を生じやすい。

③クモヘリカメムシ

口器が弱く鉤合部から加害するため、側部加害型斑点米を生じる。加害による玄米へのダメージは著しく高く、登熟初期～中期にかけて不稔米を生じやすく、減収の原因となる。登熟後期の加害により斑点米を生じやすい。

④イネカメムシ

全期間を通して子実の基部を加害し、基部加害型斑点米を生じる。水田内で増殖し、登熟初期よりも中後期の密度が高くなるため、斑点米を生じやすい。登熟初期に加害された子実は不稔米となりやすい。

本カメムシは、出穂期以降に成虫の飛来が急激に増加するため注意が必要である。2015年頃から千葉県では、被害が急増している。



写真1 斑点米カメムシ類の大きさ比較 右の目盛りは1mm

左側から、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、
ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ、ミナミアオカメムシ

(2) 斑点米カメムシ類の防除について

斑点米カメムシ類は、出穂期頃から成虫が水田内に飛来し子実を加害する。また、大型斑点米カメムシ類は水田内で増殖するため、ふ化した幼虫が子実を登熟後期まで加害する。防除適期は、成虫が飛来する穂揃期（出穂後3日頃）と幼虫がふ化する乳熟後期（出穂後15日頃）である。以下に登熟段階別の斑点米カメムシ類の被害と防除の目安を示す。

①出穂期

ほ場全体で40～50%が出穂した時期のこと。この時期に斑点米カメムシ類が水田に飛来する。

②穂揃期

ほ場全体で80～90%が出穂した時期のこと。成虫の飛来ピークであり、大型斑点米カメムシ類はすぐに産卵するため、防除を行う。この時期に加害されると不稔米になりやすい。不稔米は穀粒選別機で除去されるため、等級に影響を与えないが減収となる。

③乳熟期

乳熟期後期以降に加害されると、玄米の発育は停止せず、斑点米となる玄米が発生する。この時期は水田内でふ化・生育した幼虫の密度が高いため、防除は幼虫密度の低下を目的に行う。

④糊熟期以降

薬剤の残効が切れた後に加害が予想される場合は、追加防除を検討する。

(3) 粒剤による防除

粒剤による斑点米カメムシ類の防除はドリフトのリスクが少ないため、航空防除が困難な地域や多発生時の追加防除に有効である。

斑点米カメムシ類の防除適期は穂揃期であるが、粒剤は水に溶けた成分が水稻に吸収されて効果を示すため、出穂期に湛水散布し1週間程度湛水状態を保つ。

(4) 畦畔の雑草対策

ほ場周辺の雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となる。出穂期前後の雑草防除はカメムシ類をほ場に追い込むため逆効果である。雑草防除は出穂2週間前までに実施し、予めカメムシの密度を下げておくことが重要である。

草刈りの他に、これ以前の時期に除草剤を畦畔に散布する方法もある。非選択性茎葉処理剤と土壌処理剤を混用すると抑草期間が2か月間程度と長くなり、高温時の作業負担の軽減にもつながる。なお、散布の際には専用ノズルや飛散防止カバーを使用する。

表 水田畦畔の雑草に使用可能な除草剤例

除草剤名	種類	同一成分 使用回数 (注)	成分
ラウンドアップマックスロード	非選択 性茎葉 処理	3回以内	グリホサートカリウム塩
バスタ液剤		2回以内	グルホシネート
ザクサ液剤		2回以内	グルホシネートPナトリウム塩
カーメックス顆粒水和剤	土壌 処理	1回	DCMU
ダイロンゾル		1回	DCMU

注) グルホシネートとグルホシネートPナトリウム塩は同一成分として数える

Ⅲ 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稻・サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：7月上旬、果樹：6月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病（葉いもち）	発病度	2.44	1.14	4.49	
	紋枯病	発病度	0.03	0.02	0.00	
	ごま葉枯病	発病度	0.51	0.58	1.94	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.01	0.75	0.01	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.03	0.02	0.00	
	ニカメイガ	被害株率（％）	0.00	0.02	0.11	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.36	0.15	0.03	
	セジロウンカ	本田すくい取り捕獲虫数 注1)	0.03	0.33	0.09	
	ヒメトビウンカ	本田すくい取り捕獲虫数	0.84	0.67	1.29	
	ツマグロヨコバイ	本田すくい取り捕獲虫数	0.96	0.49	0.29	
	フタオビコヤガ	本田すくい取り捕獲虫数	0.60	0.14	0.16	
	コバネイナゴ	本田すくい取り捕獲虫数	1.87	2.82	3.09	
	大型のカメムシ類	本田すくい取り捕獲虫数	0.19	0.24	0.83	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	本田すくい取り捕獲虫数	0.04	0.06	0.04	
	アカスジカスミカメ	本田すくい取り捕獲虫数	0.00	0.15	0.37	
	クモヘリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数 注2)	0.37	0.10	0.46	
	ホソハリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	1.01	0.93	0.54	
	イネカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.03	0.03	0.00	
	シラホシカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.64	0.28	0.24	
	大型のカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲虫数	2.09	1.37	1.26	
アカヒゲホソミドリカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	4.01	2.95	1.99		
アカスジカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	26.06	19.34	12.76		
サツマイモ (印旛・香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.00	0.14	0.20	
	イモキバガ	被害葉率（％）	1.40	2.26	2.20	
ラッカセイ (千葉・君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	褐斑病	発病度	1.55	5.20	3.50	
	黒渋病	発病度	0.00	0.01	0.00	
	白絹病	発病株率（％）	0.00	0.05	0.10	
サトイモ (印旛、香取、君津)	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（％）	0.0	0.1	0.4	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	61.8	56.2	48.0	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率（％）	32.7	33.7	34.9	
秋冬ネギ (長生・山武)	黒斑病	発病度	0.14	0.67	0.75	
	さび病	発病度	0.00	1.77	3.63	
	べと病	発病株率（％）	0.00	0.13	0.50	
	ネギアザミウマ	被害度	14.14	13.33	16.63	
	ハスモンヨトウ	被害株率（％）	0.00	0.00	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ネギコガ	被害株率（％）	0.00	0.30	0.00	
ネギハモグリバエ	被害度	0.57	1.52	0.38		
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率（％）	2.62	1.89	0.85	
	黒星病	発病果率（％）	2.03	1.01	0.82	
	赤星病	発病葉率（％）	0.00	0.49	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害果率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率（％）	0.00	0.11	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	3.91	4.93	4.53	
	ニセナシサビダニ	被害新梢率（％）	0.00	0.28	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.16	0.11	0.40	
		葉の発病度	0.16	0.09	0.24	
	かいよう病	果実発病度	0.04	0.04	0.04	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.06	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率（％）	16.00	5.98	0.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	0.00	0.38	0.00	
ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.34	0.40		

注1) 調査ほ場で捕虫網を20回振り、すくい取った成幼虫の平均値

注2) 調査ほ場周辺の畦畔や路肩などの雑草地で捕虫網を20回振り、すくい取った成幼虫の平均値

トラップ月間誘殺数（6月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	0.0	2.0	2.0	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	0.3	0.0	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	0.0	1.4	0.3	
	ツマグロヨコバイ	〃	1,256.7	7.7	13.0	
	フタオビコヤガ	〃	2.3	1.5	1.3	
	イネヨトウ	〃	2.3	3.7	5.0	
	ニカメイガ	〃	0.7	0.4	0.7	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	4.3	4.6	3.3	
	クモヘリカメムシ	〃	0.0	0.1	0.3	
	ホソハリカメムシ	〃	1.0	0.1	0.7	
	イネカメムシ	〃	2.7	0.2	0.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	10.0	13.5	8.7	
	アカスジカスミカメ	〃	9.7	25.9	15.0	
ミナミアオカメムシ	〃	0.7	0.1	0.3		
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	12.0	3.1	1.7	頭/月
	クサギカメムシ	〃	1.7	0.1	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	3.0	1.1	0.0	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イチモンジカメムシ	〃	0.0	0.1	0.0	
	ホソヘリカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
(コガネムシ類)	アカヒロウドコガネ	〃	5.0	6.6	3.7	頭/月
	オオヒロウドコガネ	〃	2.7	8.0	1.0	
	ヒメコガネ	〃	0.7	2.6	0.3	
	ドウガネブイブイ	〃	7.3	1.8	2.7	
	オオクロコガネ	〃	12.3	15.3	3.0	
	アオドウガネ	〃	3.3	1.8	9.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	9.0	2.8	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	10.0	3.6	2.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	22.0	8.3	4.0	
	カメムシ類	〃	41.0	14.7	6.0	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ミナミアオカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	2.3	3.4	3.7	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.2	0.3	0.2	
	コナガ	海匝	2.3	6.5	5.4	
	ハスモンヨトウ	県内全域	2.4	4.1	4.6	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.3	0.1	0.3	
	オオタバコガ	県内全域	0.9	0.9	1.3	
	タバコガ	県内全域	0.2	0.4	0.5	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	2.0	1.1	1.4	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	2.0	1.1	1.4	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.9	0.3	0.3	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.7	1.8	1.7	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.6	2.1	2.0	
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	15.3	9.6	
ツヤアオカメムシ		〃	0.2	0.3	0.0	
クサギカメムシ		〃	0.7	0.6	0.0	
カメムシ類		〃	16.2	10.5	0.7	
マルボシヒラタヤドリハエ (天敵)		〃	1.0	1.5	0.3	

注) 種類別の単位の違いに注意

○気象予報

7月14日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

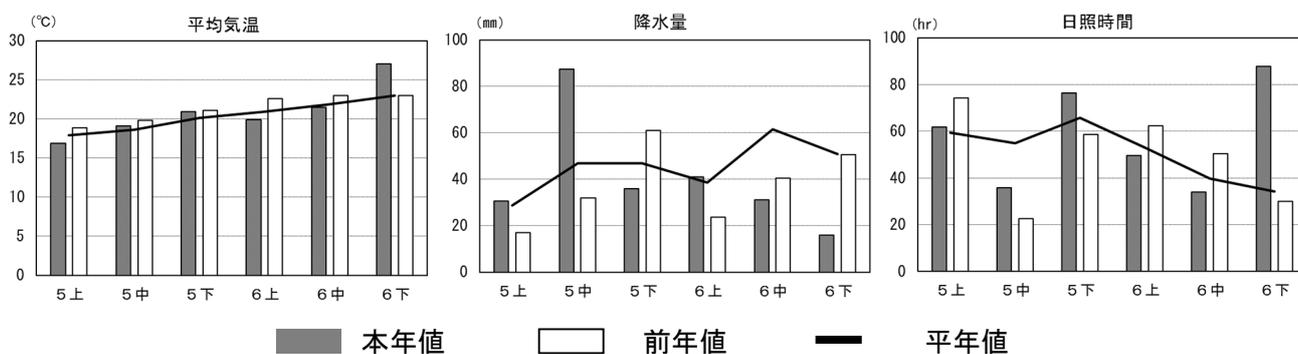
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(7月16日～8月15日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	26.9	24.9	26.4
降水量(mm)	96.5	83.2	109.6
日照時間(hr)	187.4	212.5	212.7



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は8月17日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

令和4年8月17日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (穂いもち)	やや多	7月下旬発生量：やや多 (+) 気象予報：気温高 (-) 降水量並	
	紋枯病	やや多	7月下旬発生量：やや多 (+) 気象予報：気温高 (+) 降水量並	
	ごま葉枯病	並	7月下旬発生量：並 気象予報：気温高 (+)	・ 発生が多い場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
	大型のカ メムシ類	やや多	7月下旬発生量：やや多 (+) 気象予報：気温高 (+) 降水量並	・ 多発ほ場では、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 ・ <u>令和4年度病害虫発生予報第4号P5「これから注意を要する病害虫」を参照する。</u>
	カスミカ メムシ類 (アカヒ ゲホソミ ドリカス ミカメと アカスジ カスミカ メ)	並	7月下旬発生量：並 気象予報：気温高 アカヒゲホソミドリカスミカメ (-) アカスジカスミカメ (+) 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	8月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、多発ほ場では収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
	イモキバガ（イモコガ）	やや多	8月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
ラッカセイ	褐斑病	少	8月上旬発生量：少（－） 気象予報：気温高（－） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
秋冬ネギ	白絹病	並	8月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	並	8月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌処理と併せて、即効性が期待できる薬剤の地上部処理などにより、防除する。 ネギハモグリバエについては、令和4年度病害虫発生予報第2号P4「これから注意を要する病害虫」を参照する。
	ネギハモグリバエ	並	8月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
夏秋トマト	黄化葉巻病	多	7月下旬発生量：多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等でコナジラミ類の発生を的確に把握し、初期から薬剤防除する。 タバココナジラミは黄化葉巻病を、また両種は黄化病を媒介するので、これらの発病にも注意し、発病株は抜き取ってハウス外に持ち出し、適切に処分する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 黄化葉巻病は、令和2年度病害虫発生予報第2号P3「これから注意を要する病害虫」を参照する。
	オンシツコナジラミ	多	7月下旬発生量：多（＋） 気象予報：気温高（－） 降水量並	
	タバココナジラミ	多	7月下旬発生量：多（＋） 気象予報：気温高（－） 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
サトイモ	アブラムシ類	やや多	8月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉裏に発生が多いので、薬剤散布は、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
	ハダニ類	やや多	8月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	8月上旬発生量 サツマイモ：並[発生なし] 夏秋トマト：並[発生なし] 秋冬ネギ：並[発生なし] サトイモ：並[発生なし] 7月フェロモントラップ誘殺数：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 ・ 幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に薬剤防除する。
ナシ	シンクイムシ類	並	7月下旬被害果率：並[発生なし] 7月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫時期を迎えているので、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
	ハマキムシ類	並	7月下旬 被害葉率：並[発生なし] 被害果率：並[発生なし] 7月フェロモントラップ誘殺数：やや少（－） 気象予報：気温高（＋）	
	ハダニ類	やや少	7月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
温州ミカン	ミカンハダニ	やや多	7月下旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温高（－） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月以降の発生は果実にも寄生し、外観品質を損なうので園内を見回り発生に注意する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
果樹共通	カメムシ類	やや多	7月下旬発生量 ナシ : 並 カンキツ: 並[発生なし] 7月予察灯誘殺数 : 多(+) 7月フェロモントラップ誘殺数 : やや多(+) 気象予報: 気温高(+) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多目的防災網（9mmクロス）や防虫網（4mm目）などで園全体を被覆する。 ・ カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。 ・ 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。

II 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稲・夏秋トマト・果樹：7月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：8月上旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	いもち病(穂いもち)	発病穂率(%)	0.08	0.03	0.16		
		紋枯病	発病度	1.80	1.02	1.36	
		縞葉枯病	発病株率(%)	2.23	0.47	0.00	
		ごま葉枯病	発病度	1.04	1.46	1.96	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.54	0.03		
		フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.03	0.01	0.00	
		イネヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.01	0.00	
		ニカメイガ	被害株率(%)	0.40	0.02	0.00	
		イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.04	0.01	0.00	
		コブノメイガ	上位2葉被害株率(%)	0.00	0.03	0.00	
		セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.57	3.90	0.94	
	トビイロウンカ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.02	0.00	
	ヒメトビウンカ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	48.09	23.54	16.56	
	ツマグロヨコバイ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	35.14	21.85	15.66	
	コバネイナゴ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.99	2.03	1.01	
	ササキリ類		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	2.55	2.34	1.74	
	クモヘリカメムシ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.36	0.76	0.50	
		ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.16	0.19	0.09	
		イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.17	0.25	1.17	
		シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.10	0.04	0.10	
大型のカメムシ類		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.90	1.23	1.86		
アカヒゲホソミドリカスミカメ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.03	0.10	0.00		
アカスジカスミカメ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.29	1.14	0.50		
ミナミアオカメムシ		20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.12	0.01	0.00		
サツマイモ (印旛、香取)		ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.00	0.40	0.00	
	イモキバガ	寄生幼虫数	0.80	0.76	0.40		
	ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	0.00	0.00	0.00		
ラッカセイ (千葉、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00		
	褐斑病	発病度	4.95	11.76	11.70		
	黒渋病	発病度	0.00	0.09	0.00		
	白絹病	発病株率(%)	0.00	0.61	0.00		
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	0.00	1.85	0.10		
	さび病	発病度	0.00	0.18	0.10		
	白絹病	発病株率(%)	0.00	0.04	0.00		
	ネギアザミウマ	被害度	33.00	25.08	18.80		
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00		
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00		
	ネギコガ	被害株率(%)	0.44	0.21	0.40		
	ネギハモグリバエ	被害度	3.11	3.02	0.70		
夏秋トマト(印旛)	黄化葉巻病	発病株率(%)	2.20	0.02	0.00		
	タバコガ類	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00		
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	13.60	0.84	3.20		
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	3.20	0.10	0.00		
サトイモ (印旛、香取、君津)	汚斑病	発病葉率(%)	0.0	1.5	1.1		
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	17.0	16.1	9.4		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.0	0.1	0.0		
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	22.5	12.5	12.7		

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	1.94	1.85	0.76	サビ症状
	シンクイムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.01	0.03	
	ハマキムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.01	0.12	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率 (%)	0.03	0.41	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	2.62	2.13	1.21	
	ニセナシサビダニ	成若虫被害新梢率 (%)	0.00	0.47	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.03	0.05	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.04	0.40	0.84	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.03	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	24.40	9.66	0.20	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.44	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.34	0.00	

トラップ月間誘殺数 (7月) *種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	154.0	95.4	174.0	頭/月
	セジロウンカ	"	0.3	7.6	1.3	
	トビイロウンカ	"	0.0	0.2	1.0	
	ヒメトビウンカ	"	4.7	7.9	5.0	
	ツマグロヨコバイ	"	2,488.0	187.6	17.7	
	フタオビコヤガ	"	16.0	21.6	4.7	
	イネヨトウ	"	3.3	4.6	7.3	
	ニカメイガ	"	21.3	2.0	0.7	
	コブノメイガ	"	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	"	12.7	9.0	3.0	
	クモヘリカメムシ	"	4.3	1.5	3.0	
	ホソハリカメムシ	"	2.0	1.1	1.0	
	イネカメムシ	"	83.0	18.1	57.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	"	14.0	43.1	7.3	
	アカスジカスミカメ	"	55.0	131.1	40.7	
	ミナミアオカメムシ	"	2.3	2.5	3.7	
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	"	14.3	6.6	2.0	頭/月
	クサギカメムシ	"	14.3	2.2	0.3	
	ツヤアオカメムシ	"	3.7	0.8	0.0	
	アオクサカメムシ	"	0.0	1.1	0.0	
	イチモンジカメムシ	"	3.0	1.4	1.3	
	ホソヘリカメムシ	"	1.7	0.3	0.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	"	12.0	29.5	10.3	頭/月
	オオビロウドコガネ	"	4.3	4.2	1.3	
	ヒメコガネ	"	5.3	2.8	1.3	
	ドウガネブイブイ	"	18.3	4.6	4.3	
	オオクロコガネ	"	16.3	11.0	5.0	
	アオドウガネ	"	109.0	15.2	46.3	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	51	17.8	2	頭/月
	クサギカメムシ	"	31	12.3	5	
	ツヤアオカメムシ	"	10	7.5	2	
	カメムシ類	"	92	37.6	9	
	アオクサカメムシ	"	0	0.0	0	
	ミナミアオカメムシ	"	0	0.0	0	

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	4.4	3.2	4.9	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	21.1	14.6	15.8	
	コナガ	海匠	1.3	1.5	1.6	
	ハスモンヨトウ	県内全域	4.4	6.1	4.6	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	1.0	0.2	0.6	
	オオタバコガ	県内全域	1.8	1.2	1.8	
	タバコガ	県内全域	0.6	0.8	0.5	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.5	1.2	2.0	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.5	1.2	2.0	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.5	0.5	1.1	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.4	1.3	1.1	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	0.9	1.8	2.2	
チャバネアオ カメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	65.1	28.5	0.4	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.2	0.1	0.0	
	クサギカメムシ	〃	0.7	0.3	0.0	
	カメムシ類	〃	66.0	28.9	0.4	
	マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)	〃	0.1	0.3	0.0	

○気象予報

8月11日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

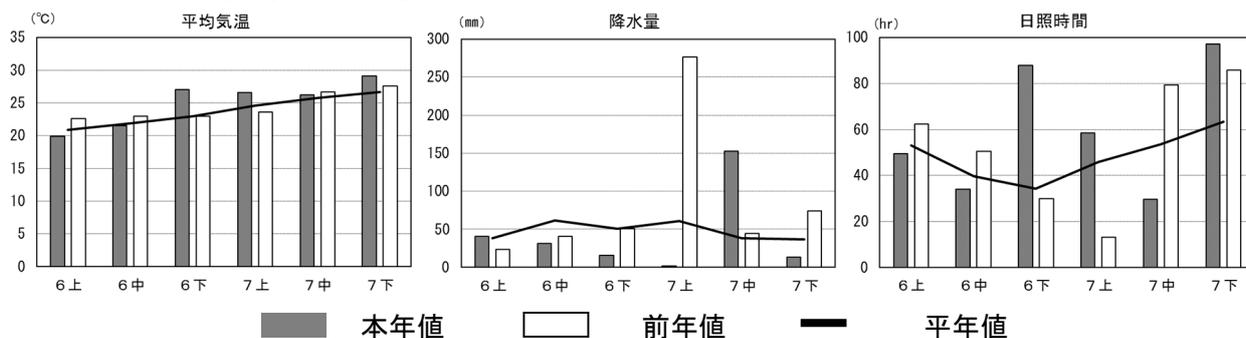
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

出典：気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html)

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(8月13日～9月12日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	26.3	25.1	26.0
降水量(mm)	164.4	136.3	152.9
日照時間(hr)	170.6	201.3	198.6



過去2か月の気象概況(アメダス千葉)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は9月20日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和4年9月20日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
サツマイモ	ナカジロシタバ	多	9月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(-)	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。
	イモキバガ	多	9月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(-)	
秋冬ネギ	黒斑病	並	9月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：降水量並か多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 肥料切れしないようにする。 多発ほ場では薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	やや少	9月上旬発生量 被害度：並 寄生株率：少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(-)	
	ネギハモグリバエ	並	9月上旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(-)	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
夏秋トマト	葉かび病	やや多	8月下旬発生量：並 気象予報：降水量並か多（＋） 日照時間少か並（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 施設の換気を十分に行う。 発生初期から薬剤防除する。
	アザミウマ類	並	8月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	黄化葉巻病	多	8月下旬発生量 黄化葉巻病：やや多（＋） タバココナジラミ：多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、初期から薬剤防除する。 タバココナジラミは黄化葉巻病を媒介するので、これらの発病にも注意し、発病株は抜き取ってハウス外に持ち出し、適切に処分する。
	タバココナジラミ	多	8月下旬発生量：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 黄化葉巻病は、令和2年度病害虫発生予報第2号P3「これから注意を要する病害虫」を参照する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。
	オンシツコナジラミ	多	8月下旬発生量：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 黄化葉巻病は、令和2年度病害虫発生予報第2号P3「これから注意を要する病害虫」を参照する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。
野菜・花き共通	コナガ	並	8月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 育苗中から防除を徹底する。 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、発生初期に防除を行うよう心がける。 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避け、数系統でのローテーション散布を行う。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	並	8月フェロモントラップ誘殺数 ：並 8月下旬発生量 夏秋トマト：並〔発生なし〕 9月上旬発生量 サツマイモ：並〔発生なし〕 秋冬ネギ：並〔発生なし〕 サトイモ：並 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 幼虫が大きくなると薬剤の効果低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に薬剤防除する。
	シロイチモジヨトウ	多	8月フェロモントラップ誘殺数 ：多（+） 9月上旬発生量 秋冬ネギ：多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	
	タバコガ類	やや多	8月フェロモントラップ誘殺数 オオタバコガ：多（+） タバコガ：並 8月下旬発生量 夏秋トマト：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+）	<ul style="list-style-type: none"> 施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。 幼虫は見つけ次第捕殺する。 薬剤防除は若齢幼虫期に行う。
温州ミカン	ミカンハダニ	多	8月下旬発生量：多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	<ul style="list-style-type: none"> 秋ダニの発生に注意する。寄生葉率が20%以上の場合に薬剤防除する。
果樹共通	カメムシ類	並	8月下旬発生量 温州ミカン：並〔発生なし〕 8月予察灯誘殺数 ：並 8月フェロモントラップ誘殺数 ：やや多（+）	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・果樹・夏秋トマト：8月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：9月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(穂いもち)	発病穂率(%)	0.02	0.10	0.33	
	紋枯病	発病度	4.28	2.24	2.32	
	縞葉枯病	発病株率(%)	2.00	0.54	0.24	
	ごま葉枯病	発病株率(%)	8.06	12.12	15.94	
	稲こうじ病	発病株率(%)	0.06	0.40	0.55	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.04	0.40	0.00	
	ニカメイガ	被害株率(%)	0.12	0.02	0.00	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害苞数	0.00	0.00	0.00	
	コブノメイガ	上位2葉被害株率(%)	0.00	0.11	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.59	2.78	2.18	
	トビロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	30.96	26.26	45.83	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	181.84	80.44	105.10	
	コバネイナゴ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.94	0.69	0.42	
	ササキリ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	3.32	2.49	2.29	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.32	1.04	0.27	
	ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.22	0.23	0.32	
	イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.26	0.21	0.12	
	シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.13	0.03	0.05	
	ミナミアオカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.03	0.02	0.02	
斑点米カメムシ類	捕獲ほ場率(%)	33.82	33.44	31.82		
アカヒゲホソミドリカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.01	0.06	0.02		
アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.43	0.55	0.23		
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ	100葉当たり寄生幼虫数	0.00	0.10	0.60	
	ナカジロシタバ	100葉当たり寄生幼虫数	2.00	0.81	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	10.00	7.05	4.20	
		100葉当たり寄生幼虫数	3.20	1.31	0.20	
ラッカセイ (千葉、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.01	0.00	
	褐斑病	発病度	11.35	28.00	27.25	
	黒渋病	発病度	0.00	0.50	0.15	
	白絹病	発病株率(%)	2.20	2.84	0.60	
サトイモ (印旛、香取、君津)	汚斑病	発病葉率(%)	10.55	7.56	10.55	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	12.95	12.62	10.55	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	3.64	4.03	5.82	
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	2.15	9.59	6.45	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	0.9	2.48	1	
	さび病	発病度	0	0	0	
	べと病	発病株率(%)	0	0.04	0	
	ネギアザミウマ	被害度	27.9	28.65	33.7	
		成幼虫寄生株率(%)	26.4	43.66	27.6	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0	0.12	0	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.4	0.04	0.4	
	ネギコガ	被害株率(%)	0	0.16	0	
ネギハモグリバエ	被害度	4.9	7.41	13.8		
夏秋トマト (印旛、山武)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	0.08	0.80	
		発病果率(%)	0.00	0.00	0.00	
		果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	葉かび病	発病株率(%)	2.67	2.16	3.20	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	1.78	0.97	1.90	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	タバコガ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.40	0.40	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	31.56	5.08	8.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	14.22	1.80	8.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.40	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	7.11	0.52	0.40	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	1.33	6.84	0.00	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	0.71	0.85	0.18	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.03	0.05	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率 (%)	1.06	2.46	2.76	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.15	0.42	0.06	
	吸ガ類	被害果率 (%)	0.00	0.09	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.28	0.10	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.08	0.15	0.12	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.17	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	21.00	1.21	4.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.60	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.39	0.00	

トラップ月間誘殺数 (8月) *種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	13.7	19.0	21.0	頭/月
	セジロウンカ	〃	3.0	7.3	1.7	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.2	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	4.3	16.1	11.3	
	ツマグロヨコバイ	〃	684.0	606.0	142.7	
	フタオビコヤガ	〃	12.0	25.8	12.7	
	イネヨトウ	〃	1.7	6.0	4.0	
	ニカメイガ	〃	8.7	2.4	0.3	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	33.0	89.3	140.0	
	クモヘリカメムシ	〃	9.3	23.6	17.7	
	ホソハリカメムシ	〃	4.0	1.8	1.0	
	イネカメムシ	〃	80.3	45.4	95.7	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	4.7	35.3	3.7	
	アカスジカスミカメ	〃	66.7	168.0	173.0	
ミナミアオカメムシ	〃	4.0	36.3	23.3		
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	8.3	12.7	8.3	頭/月
	クサギカメムシ	〃	10.7	9.3	12.7	
	ツヤアオカメムシ	〃	3.7	1.9	0.0	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	1.3	0.3	
	イチモンジカメムシ	〃	4.7	2.3	0.3	
	ホソヘリカメムシ	〃	0.3	0.2	0.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	9.0	16.3	3.0	頭/月
	オオビロウドコガネ	〃	5.7	4.9	3.0	
	ヒメコガネ	〃	6.3	6.3	1.7	
	ドウガネブイブイ	〃	14.3	4.8	4.3	
	オオクロコガネ	〃	3.0	4.1	1.7	
	アオドウガネ	〃	91.0	21.8	45.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	10.0	21.7	24.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	12.0	19.1	29.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	1.0	2.3	6.0	
	カメムシ類	〃	23.0	43.1	59.0	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ミナミアオカメムシ	〃	0.0	0.3	0.0	

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	1.9	1.9	1.9	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	12	15	10.9	
	コナガ	海匠	0.2	0.3	0.3	
	ハスモンヨトウ	県内全域	10.9	11.9	9.3	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	3.1	1.1	2.7	
	オオタバコガ	県内全域	3.7	2.1	2.3	
	タバコガ	県内全域	1	1.3	0.6	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.4	1.2	1.9	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0	0	0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.4	1.2	1.9	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.1	0.1	0.2	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.2	0.7	0.5	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	0.3	0.8	0.7	
	チャバネアオ カメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	18.7	7.9	
ツヤアオカメムシ		〃	0.1	0.2	0	
クサギカメムシ		〃	0.1	0.1	0	
カメムシ類		〃	18.9	8.2	0.7	
マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)		〃	0.2	0.1	0	

○気象予報

9月15日気象庁発表

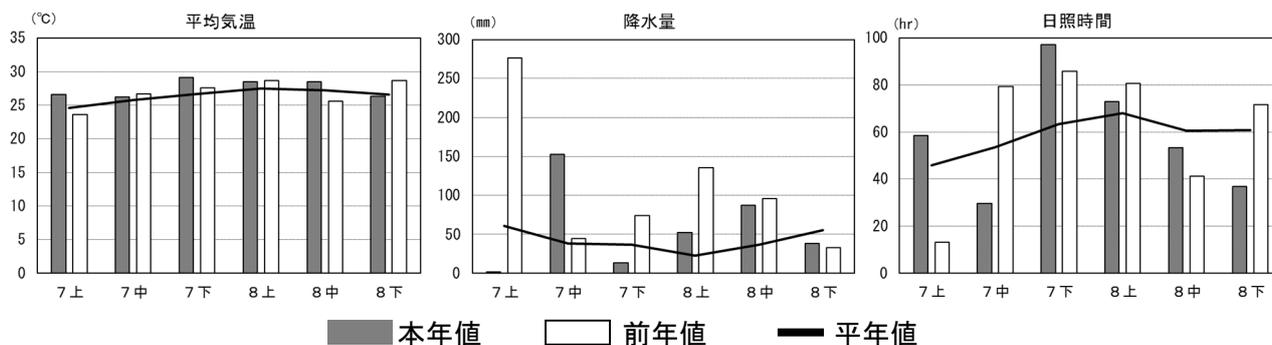
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	30	60
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(9月17～10月16日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	22.2	22.1	22.2
降水量(mm)	229.7	264.4	247.5
日照時間(hr)	124.4	142.8	137.8



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は10月19日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

令和4年10月19日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
夏 秋 ト マ ト	灰色かび病	やや多	9月下旬発生量：やや多(+) 気象予報 ：降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。 発病果、発病葉は早めに摘除し、施設外に持ち出し適切に処分する。
	黄化葉巻病	多	9月下旬発生量 黄化葉巻病：多(+) タバココナジラミ：多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等でコナジラミ類の発生を的確に把握し、発生初期から薬剤防除する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 タバココナジラミは黄化葉巻病を、また両種は黄化病を媒介するので、これらの発病にも注意し、発病株は抜き取ってハウス外に持ち出し、適切に処分する。 栽培終了時にはハウス内を除草、トマトを抜根した状態でハウスを密閉し、完全に枯死させて本虫を死滅させる。 黄化葉巻病は、<u>令和2年度病害虫発生予報第2号P3「これから注意を要する病害虫」</u>を参照する。
	タバココナジラミ	多	9月下旬発生量 タバココナジラミ：多(+)	
	オンシツコナジラミ	多	オンシツコナジラミ：多(+) 黄色粘着トラップ誘殺数 コナジラミ類：多(+) 気象予報：気温並 降水量並	
	アザミウマ類	やや少	9月下旬発生量：やや少(-) 黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや少(-) 気象予報：気温並	
冬 キ ャ ベ ツ	黒腐病	並	今春発生量：並[発生なし] 10月上旬発生量 ：並[発生なし] 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 結球始めころから薬剤防除する。 風雨で傷を受けないよう管理に注意し、風雨後は速やかに薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	黒斑病	やや少	10月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 肥料切れしないようにする。 発生初期から薬剤防除する。
	さび病	並	10月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	べと病	並	10月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温並 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 気温が15℃前後の多湿条件で発生しやすい。発病してからの薬剤散布では効果が劣るので、降雨や霧の発生が予想される時などには、「ねぎべと病なび」も参考に、予防散布を行う。
	ネギアザミウマ	並	10月上旬発生量 被害度：やや多（＋） 寄生株率：少（－） 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
イチゴ	うどんこ病	やや少	10月上旬発生量： やや少（－） 気象予報：気温並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	ハダニ類	やや少	10月上旬発生量：少（－） 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 令和2年度病害虫発生予報第6号P4「これから注意を要する病害虫」を参照する。
温州ミカン	ミカンハダニ	やや少	9月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 寄生葉率が20%以上の場合に薬剤防除する。
	カメムシ類	やや少	9月下旬被害果率： 並〔発生なし〕 9月果樹予察灯誘殺数： やや少（－） 9月フェロモントラップ誘殺数： 並 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
ビワ	灰斑病	並	9月下旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 伝染源は旧葉の病斑であるから、罹病葉を摘除し落葉は集めて園外で処分する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
カーネーション	アザミウマ類	少	9月下旬発生量：少（－） 気象予報：気温並 降水量並	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	やや少	9月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並 降水量並	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
野菜・花き共通	コナガ	並	10月上旬発生量 冬キャベツ：並 [発生なし] 9月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温並 降水量並	・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハスモンヨトウ	並	9月下旬発生量 夏秋トマト：並 [発生なし] カーネーション：並 [発生なし] 10月上旬発生量 イチゴ：やや多（＋） 秋冬ネギ：並 [発生なし] 9月フェロモントラップ誘殺数：少（－） 気象予報：気温並 降水量並	・ 中齢期以降の幼虫は薬剤の防除効果が著しく低下するため、早期発見、早期防除に努める。
	シロイチモジヨトウ	やや多	10月上旬発生量 秋冬ネギ：やや多（＋） カーネーション：並 [発生なし] 9月フェロモントラップ誘殺数：やや多（＋） 気象予報：気温並 降水量並	
	オオタバコガ	やや多	9月下旬発生量 カーネーション：並 [発生なし] 9月フェロモントラップ誘殺数：多（＋） 気象予報：気温並 降水量並	

Ⅱ これから注意を要する病害虫

ナシの黒星病 ～秋季以降の防除について～

黒星病については、昨年 11 月の秋型病斑調査での罹病葉率は平年並、発生ほ場率はやや多い発生であった。2 月実施の腋花芽りん片調査での罹病芽率は平年よりやや少ない発生であった。

このため令和 4 年 3 月 16 日に発表した令和 3 年度発生予報第 11 号では、4 月の黒星病の予想発生量は「並」とした。

しかし、本年度の巡回調査の結果は下表 1 のとおりで平年より多い発生となった。このため、令和 4 年 5 月 18 日付け病害虫発生予報第 2 号 P 6 「これから注意を要する病害虫」及び、6 月 15 日付け病害虫発生予報第 3 号「これから注意を要する病害虫」において、本病の防除に関する注意喚起を行った。

黒星病は、10 月から落葉期にかけての雨が多いと伝染しやすく、また、罹病した落葉、腋花芽のりん片が第一次伝染源となり、2 月以降の気温が高く降水量が多いと伝染しやすくなる。

このため、今後の天候によっては、本年同様に早期から本病が発生する可能性があるため、秋季以降の対策が必要である。

表 1 令和 4 年度の黒星病発生状況（県下 3 4 地点、各月下旬に調査した結果） 単位：%

	4 月		5 月		6 月		7 月	
	発病葉率	発病果率	発病葉率	発病果率	発病葉率	発病果率	発病葉率	発病果率
本年値	0.03	0.32	2.41	1.82	2.62	2.03	1.94	1.79
平年値	0.00	0.11	1.18	0.96	1.89	1.01	1.85	1.31
前年値	0.00	0.26	0.65	0.76	0.85	0.82	0.76	0.50

<秋冬季における防除>

1 秋季防除（10 月中旬～11 月中旬）

ア この時期の黒星病防除は、翌年の伝染源となる芽基部病斑を防ぐために極めて重要である。

落葉期までにオキシラン水和剤 500 倍液（収穫 3 日前/9 回）を 10 日以上の間隔をあけて 2 回散布（黒星病多発園では 3 回散布）する。

なお、落葉が遅い園では、落葉期（80%程度が自然落葉したとき）に最終の散布を行う。

イ 徒長枝に薬液が十分にかかるよう、使用量は 300L/10a 以上と多くする。

ウ 展着剤アビオン-E 2000 倍液を加用すると薬剤の耐雨性が高まる。

2 落葉以降の防除

ア 罹病落葉は黒星病・炭疽病の有力な伝染源となるため、落葉はかき集め園外に埋却するなど適切に処分する。または、ロータリー耕により、落葉を粉碎し、土中に埋める。

イ 徒長枝にある花芽も伝染源となるので、剪定枝も早期に園外に埋却するなど適切に処分する。

ウ 令和 3 年度は炭疽病が多発した。今年度も発生した園では、強めの剪定を行い通風が良くなるようにする。

エ 黒星病には効果が高くても炭疽病には効果の低い薬剤もあるので、炭疽病の発生園では、炭疽病にも適用のある薬剤を取り入れる（表 2）。ただし、耐性菌発生防止のため、同一コードの農薬の連用は避ける。

なお、薬剤の選定等、疑問点がある場合は、普及指導員、営農指導員に相談すること。

表2 黒星病・炭疽病に登録のある農薬

商品名	適用病害名	希釈倍数	使用時期 ／使用回数	防除時期	FRAC コード
オキシラン水和剤	黒星病	500～600倍	収穫3日前まで ／9回以内	収穫後～落葉期	M4 M1
	炭疽病	500倍			
デランフロアブル	黒星病	1000倍	収穫60日前まで ／4回以内	収穫後～落葉期 りん片脱落期 5月下旬	M9
	炭疽病				
オーソサイド水和剤80	黒星病	600～1000倍	収穫3日前まで ／9回以内	催芽期～発芽期	M4
	炭疽病	800倍			
チオノックフロアブル／ トレノックスフロアブル	黒星病	500倍	収穫30日前まで ／5回以内	りん片脱落期 開花直前 開花期 受粉終了後 5月上旬	M3
	炭疽病				

注1:農作物病害虫雑草防除指針(令和4年版)(1)なしア幸水・豊水・その他赤なしに記載のある農薬である(二十世紀では防除方法が異なるので注意する)。

注2:全ての薬剤の散布量は200～700ℓ/10a、使用方法は散布である。

注3:オキシラン水和剤はキャプタン(M4)と有機銅(M1)の混合剤である。

表3 殺菌剤の耐性菌発生リスク (FRACコード表日本版(2022年5月)より)

FRACコード	耐性リスク
M1、M3、M4、M9	全般的に低リスクとみなしている。

Ⅲ その他の情報

ビワを加害するチャバネアオカメムシの来年の発生について～来年は少発生～

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の越冬後成虫による果実被害は、5月下旬から6月にかけて収穫時期となるビワで問題となる。特にチャバネアオカメムシは発生量の年次変動が激しく、多発生する年には甚大な被害を及ぼす。このため、前年に越冬後成虫の発生量を予測することが、二重袋^(注1)の手配など、早期に防除手段を選択するための産地情報として重要である。

チャバネアオカメムシ早期発生予測モデル^(注2)を用いて、2023年4～7月までの南房総地域におけるチャバネアオカメムシの誘殺数を予測した結果、100頭を下回る予想となった(図)。

このことから、来年は少発生が予想されるため、多くのほ場では果樹カメムシ類の被害が少ないと予想される。しかし、ほ場によっては被害が発生するので、飛来が始まる4月下旬以降に園内外をよく見回り、各ほ場での発生に注意する。また、今後発表される発生予察情報にも留意する。

注1：二重袋は果実をパラフィン紙で筒状に覆い、さらに外側を慣行袋で包むことで、果樹カメムシ類が刺す外側の袋と果面の間に空間が確保され、吸汁が抑制される効果がある。

注2：本予測モデルは南房総地域のスギ雄花生産量（千葉県農林総合研究センター森林研究所による）と果樹カメムシ類の集合フェロモントラップ誘殺数を用いて次年度の越冬成虫数を予測する式で、千葉県農林総合研究センター（暖地園芸研究所）が開発した（詳細は <https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/h27.html> を参照）。予測モデルによる南房総地域におけるチャバネアオカメムシ越冬後予想発生量（4～7月）は、トラップ当たりの誘殺数が1～100頭未満の場合は少発生、100～1,000頭未満の場合は中程度の発生、1,000頭以上では多発生と予想される。

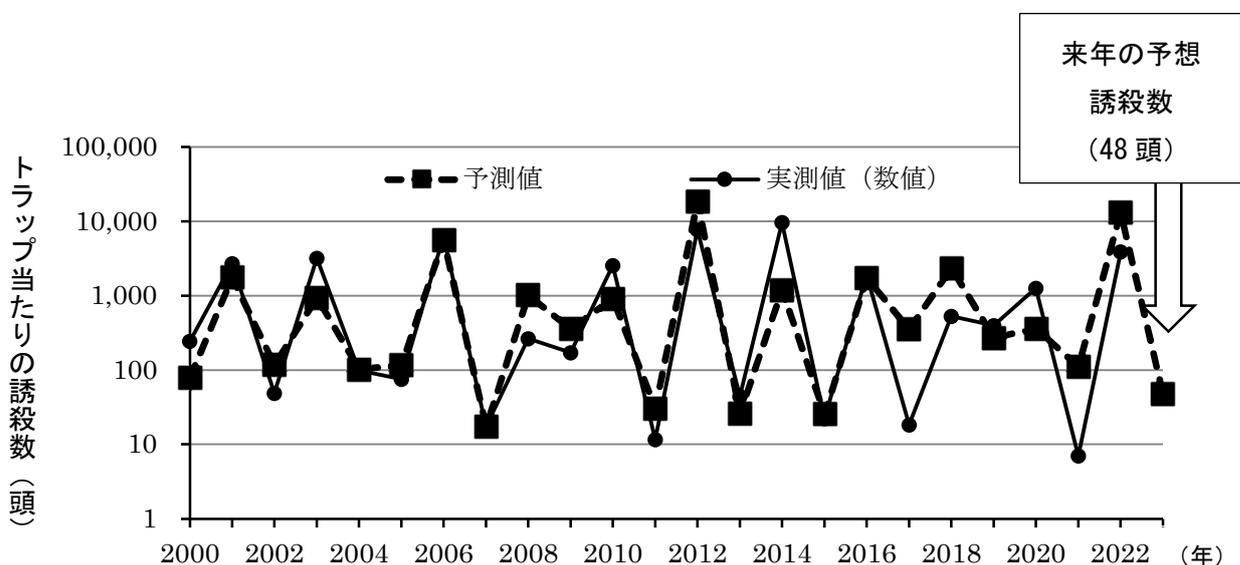


図 チャバネアオカメムシフェロモントラップ予測誘殺頭数及び実測誘殺頭数の年次変動

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（イネ：8月中下旬、果樹・花き：9月下旬、サツマイモ・野菜：9月下旬～10月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	斑点米	発生粒率(%)	0.26	0.25	0.26	1.7mmで篩掛 けした玄米 5000粒で調査	
	黒点米(黒点症状米を含む)	発生粒率(%)	0.04	0.03	0.02		
	その他着色粒	発生粒率(%)	0.16	0.20	0.13		
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ	100葉あたり寄生幼虫数	1.60	0.54	5.40		
	ナカジロシタバ	100葉あたり寄生幼虫数	0.80	0.43	0.20		
	イモキバガ	被害葉率(%)	1.60	1.12	1.20		
夏秋トマト (山武、印旛)	灰色かび病	発病株率(%)	8.89	1.44	1.20		
		発病果率(%)	0.00	0.03	0.04		
		果実発病度	0.00	0.40	0.20		
	葉かび病	発病株率(%)	1.78	5.65	18.40		
		黄化葉巻病	発病株率(%)	6.33	2.12	6.30	
		オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	43.11	12.04	24.40	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	32.00	4.48	30.40		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00		
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	8.00	1.96	10.40		
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.89	9.39	0.00		
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	1171.19	151.04	426.91		
	アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	2.66	35.95	0.80		
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00		
	黒腐病	発病度	0.00	0.25	0.00		
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.00	0.00		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.10	0.00		
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	1.30	5.75	2.10		
	さび病	発病度	0.00	0.03	0.00		
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.40	0.00		
	ネギアザミウマ	被害度	29.40	22.92	27.70		
		成幼虫寄生株率(%)	11.60	37.31	29.60		
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.32	0.80		
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	1.20	0.61	4.00		
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.30	0.40		
ネギハモグリバエ	被害度	15.00	11.97	29.20			
イチゴ (山武、海匠、安房)	うどんこ病	発病株率(%)	0.00	1.73	0.00		
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.71	2.45	3.06		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	2.59	2.06	1.65		
	ハダニ類	雌成虫寄生株率(%)	0.94	7.52	4.00		
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.12	0.62	0.06		
	炭疽病	発病新梢率(%)	0.00	0.13	1.12		
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.00	0.03	0.00		
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.47	0.95	1.45		
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.03	0.27	0.00		
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.04	0.15	0.24		
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00		
	黒点病	果実発病度	0.08	1.10	2.08		
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生果率(%)	0.00	0.02	0.00		
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	3.18	0.80		
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.20	1.72	0.60		
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.40	1.60	0.40		
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.08	0.00		
	叩き落とし虫数	0.00	0.82	0.00			
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	1.75	1.40	0.00		
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.03	0.00		
	カミキリムシ類	被害穴数	0.25	0.63	0.00		

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.72	2.40	
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.40	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	0.00	20.33	1.60	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.48	0.80	
	ヨトウムシ類	被害株率 (%)	5.60	5.33	1.60	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	9.23	0.00	
	オオタバコガ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.32	0.00	

トラップ月間誘殺数 (9月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	0.7	0.3	0.3	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.7	4.5	4.7	
	トビイロウンカ	〃	0.0	1.8	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	1.0	1.2	4.0	
	ツマグロヨコバイ	〃	643.7	431.6	1,399.0	
	フタオビコヤガ	〃	0.3	0.8	3.0	
	イネヨトウ	〃	3.3	10.8	9.0	
	ニカメイガ	〃	3.7	0.5	0.0	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	15.0	48.1	10.7	
	クモヘリカメムシ	〃	1.0	2.6	1.7	
	ホソハリカメムシ	〃	0.3	0.3	0.0	
	イネカメムシ	〃	12.7	3.5	7.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	0.7	3.0	2.0	
	アカスジカスミカメ	〃	10.7	36.8	21.3	
ミナミアオカメムシ	〃	3.0	12.6	8.0		
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	0.3	3.4	8.3	頭/月
	クサギカメムシ	〃	1.3	0.8	0.7	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	2.1	11.7	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.3	0.0	
	イチモンジカメムシ	〃	0.0	0.2	0.0	
	ホソヘリカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	2.3	4.9	0.3	頭/月
	オオビロウドコガネ	〃	0.7	2.2	1.0	
	ヒメコガネ	〃	0.3	0.8	0.0	
	ドウガネブイブイ	〃	0.0	0.4	0.3	
	オオクロコガネ	〃	1.0	0.4	0.0	
	アオドウガネ	〃	81.0	15.6	60.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	3	14.5	71	頭/月
	クサギカメムシ	〃	3	6.7	20	
	ツヤアオカメムシ	〃	0	13.8	101	
	果樹カメムシ類	〃	6	35.0	192	
	アオクサカメムシ	〃	0	0.0	0	
	ミナミアオカメムシ	〃	0	0.4	0	

注) 種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	3.9	2.7	3.5	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.6	1.0	0.7	
	コナガ	海匠、安房	0.5	0.4	0.3	
	ハスモンヨトウ	県内全域	15.0	27.5	21.0	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	2.9	1.8	4.7	
	オオタバコガ	県内全域	6.0	3.5	2.6	
	タバコガ	県内全域	1.5	1.9	0.8	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.7	1.5	2.9	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.7	1.5	2.9	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.5	0.3	1.2	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.4	1.6	1.6	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	0.9	2.0	2.8	
	チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	4.7	5.7	
ツヤアオカメムシ		〃	0.3	1.4	1.3	
クサギカメムシ		〃	0.7	0.4	0.3	
カメムシ類		〃	5.8	7.5	5.2	
マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)		〃	0.7	0.4	0.1	

注) 種類別の単位の違いに注意

○気象予報

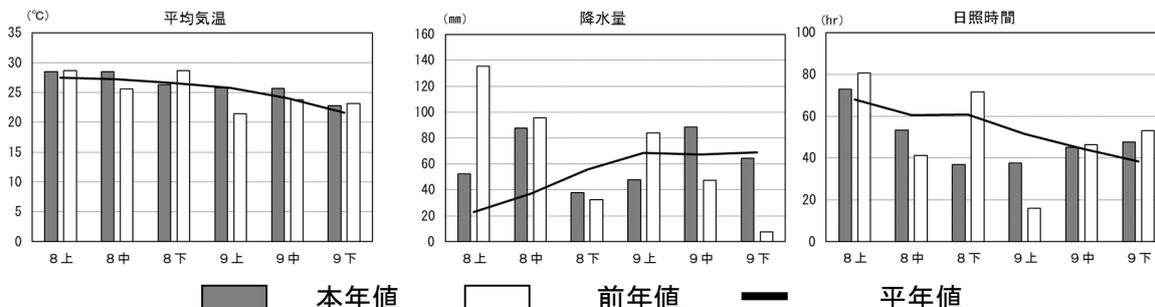
10月13日気象庁発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	30	30	40
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(10月15日～11月14日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	17.4	18.1	17.4
降水量(mm)	181.0	226.1	224.9
日照時間(hr)	138.7	142.6	143.5

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・ 次回の発行予定は11月16日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬春キュウリ	うどんこ病	少	11月上旬発生量：少(-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 窒素肥料の多追肥を避ける。 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	褐斑病	並	11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 多湿条件で発生しやすい。そのため、換気や通風等に注意し、施設内が過湿にならないよう管理する。
	べと病	並	11月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	オンシツコナジラミ	やや少	11月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の雑草を除去する。 薬剤散布は、葉裏までていねいに行う。 オンシツコナジラミはキュウリ黄化病を、タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病を媒介する。 <u>P4「これから注意を要する病害虫」も参照。</u>
	タバココナジラミ	やや多	11月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：日照時間並	
冬キャベツ	菌核病	並	今春発生量：並〔発生なし〕 11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取ってほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 <u>令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。</u>
	黒腐病	多	11月上旬発生量：多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は葉先の水孔や傷口から侵入しやすいので、風雨後は注意し、発生初期から薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	さび病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
	べと病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	
	ネギアザミウマ	並	11月上旬発生量 被害度：並 寄生株率：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が確認された場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 葉の隙間等に潜んでいることもあるので、薬剤散布はていねいに行う。
	ネギハモグリバエ	多	11月上旬発生量：多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が確認された場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 収穫残さは発生源となるため、ほ場内に放置せず、適切に処分する。
冬レタス	菌核病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。 トンネル被覆前に予防散布を徹底する。 トンネル被覆後は過湿にならないよう換気に努める。 菌核病については、令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。 灰色かび病については、令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
	灰色かび病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	並	11月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	・ 発生初期から薬剤防除する。
	灰色かび病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：日照時間並	・ 施設内の換気を良くし湿度を下げる。 ・ 発病葉、発病果は速やかに摘除し、適切に処分する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 ・ <u>令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」</u> も参照。
	アブラムシ類	少	11月上旬発生量：少（－） 気象予報：日照時間並	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	少	11月上旬発生量：少（－） 気象予報：日照時間並	・ ハダニ類については、 <u>令和2年度病害虫発生予報第6号P4「これから注意を要する病害虫」</u> も参照。
カーネーション	アザミウマ類	少	10月下旬発生量：少（－） 10月黄色粘着トラップ誘殺数： 少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	やや少	10月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、発病初期から薬剤防除する。
野菜・花き共通	コナガ	並	10月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック： 並 [発生なし] 11月上旬発生量 冬キャベツ：やや多（＋） 10月フェロモントラップ誘殺数： ：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、発生初期に薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

コナジラミ類・コナジラミ類伝染性ウイルス病（野菜・花き）

野菜類を加害する主なコナジラミ類として、タバココナジラミ（写真1）、オンシツコナジラミ（写真2）があげられる。両種の主な被害として、排泄物にすす病が発生して葉や果実が汚染されるほか、病原ウイルスを媒介することがあげられ重要な害虫である。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（写真3）やキュウリ退緑黄化病など、オンシツコナジラミはキュウリ黄化病などの病原ウイルスを媒介する。特に、トマト黄化葉巻病に罹病すると着果不良を引き起こし、収量への影響が大きい。

10月下旬に山武地域で実施した夏秋トマト病害虫調査によると、タバココナジラミの成虫寄生株率は20.00%（平年値4.16%）と平年を大きく上回り、トマト黄化葉巻病の発病株率も8.80%（平年値5.14%）と平年を上回った。

また、11月上旬に山武地域で実施した冬春キュウリ病害虫調査では、オンシツコナジラミの成虫寄生株率は平年値を下回ったものの、タバココナジラミの成虫寄生株率は15.20%（平年値4.74%）と平年を大きく上回った。

タバココナジラミ、オンシツコナジラミともに、施設内で越冬することができる。そのため、冬期でも特に施設栽培では注意が必要である。



写真1 タバココナジラミ
の成虫



写真2 オンシツコナジラミ
の成虫



写真3 黄化葉巻病に罹病した
トマト

<防除法>

- 1 コナジラミ類の施設への侵入を防止するため、天窗や側窓等の開口部に防虫網（0.4mm目以下）を張り、出入口を二重構造にする。施設への入退時は、コナジラミ類が衣服に付着していないか注意する。
- 2 育苗期または定植時に粒剤等を処理する。コナジラミ類の発生が確認されたら、早期に薬剤防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- 3 ほ場内のウイルス病発病株は、病原ウイルスの伝染源となるので見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せずに、ビニール袋等で密閉し、枯死させてから処分する。
- 4 ハウス内外の雑草及び野生えは、コナジラミ類の増殖源となり、また病原ウイルスの伝染源となるので、除去する。
- 5 栽培終了後は、雑草も含めてハウス内のすべての植物を抜いた状態でハウスを密閉し、完全に枯死させてコナジラミ類を死滅させる。
- 6 トマト黄化葉巻病抵抗性品種は、病原ウイルスの増殖を完全には抑制できず、感染すると発病しなくても植物体中で病原ウイルスが増殖し、伝染源となりうる。このため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（イネ：10月、野菜：10月下旬～11月上旬、果樹・花き：10月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	萎縮病	再生株発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	縞葉枯病	再生株発病株率(%)	0.95	0.81	0.52	
	黄萎病	再生株発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黄化萎縮病	再生株発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
夏秋トマト (山武)	灰色かび病	発病株率(%)	23.20	9.24	12.00	
	"	発病果率(%)	0.27	0.06	0.11	
	"	果実発病度	1.40	0.56	0.69	
	葉かび病	発病株率(%)	10.40	11.06	16.00	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	8.80	5.14	15.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	28.80	19.54	17.60	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	20.00	4.16	30.40	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	8.80	2.52	13.60	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	4.58	0.00	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率(%)	6.40	14.46	12.60	
	褐斑病	発病葉率(%)	0.00	0.03	0.00	
	べと病	発病葉率(%)	0.60	1.30	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.11	0.80	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	2.40	5.69	7.20	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	15.20	4.74	25.60	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	2.40	0.16	0.00	
	ヨトウガ	卵幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.80	3.52	0.80	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.08	0.02	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	タマナギンウワバ	10株当たり寄生幼虫数	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	1.80	4.79	2.70	
	さび病	発病度	0.00	0.14	0.10	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.16	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	21.30	24.14	26.60	
	"	成幼虫寄生株率(%)	26.00	44.12	25.20	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.80	0.60	1.20	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.40	0.24	1.60	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.40	0.72	5.60	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.08	0.40	
	ネギハモグリバエ	被害度	15.90	4.55	11.10	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	腐敗病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ネキリムシ類	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.41	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	3.06	4.94	2.12	
	炭そ病	発病株率 (%)	0.24	0.14	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	1.65	6.14	2.59	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.47	1.67	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	3.76	14.33	8.00	
ナシ (県内全域)	黒星病 (秋型病斑)	発病葉率 (%)	1.97	1.92	2.42	
	うどんこ病	発病度	1.10	3.93	1.30	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.00	0.14	0.08	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	9.12	4.51	13.24	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.10	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	0.80	6.22	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.56	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.14	0.00	
	カメムシ類	叩き落し虫数	0.00	0.36	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率 (%)	3.75	3.12	0.75	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.60	0.00	
カーネーション (安房)	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.84	0.00	
	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.88	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	1.60	19.26	4.80	
	アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	0.53	10.38	4.37	
	オオタバコガ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.48	0.80	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ヨトウムシ類	被害株率 (%)	0.80	3.68	0.80	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	11.02	0.00	
ストック (安房)	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.24	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	1.00	1.69	3.00	
	コナガ (施設)	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	0.00	6.39	4.00	
	コナガ (露地)	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.23	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	2.97	0.00	

トラップ月間誘殺数（10月）*種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	2	5	19	頭/月
	クサギカメムシ	"	2	1	4	
	ツヤアオカメムシ	"	0	8	36	
	カメムシ類	"	4	14	59	
	アオクサカメムシ	"	0	0	0	
	ミナミアオカメムシ	"	0	0	0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.0	0.2	0.1	頭/日
	ヒメコガネ	"	0.0	0.0	0.0	
	コナガ	海匠、安房	0.5	0.8	0.6	
	ハスモンヨトウ	県内全域	17.5	32.9	23.6	
	シロイチモジヨトウ	"	2.4	1.1	3.2	
	オオタバコガ	"	4.5	3.5	3.3	
	タバコガ	"	1.1	0.7	0.4	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	0.8	0.5	1.2	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	0.8	0.5	1.2	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	1.5	1.0	2.4	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.8	3.5	5.2	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	3.3	4.4	7.6	
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	1.5	1.6	
ツヤアオカメムシ		"	0.4	0.7	2.0	
クサギカメムシ		"	0.8	0.4	0.8	
カメムシ類		"	2.6	2.6	4.7	
マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)		"	0.3	0.2	0.0	

○気象予報

11月10日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

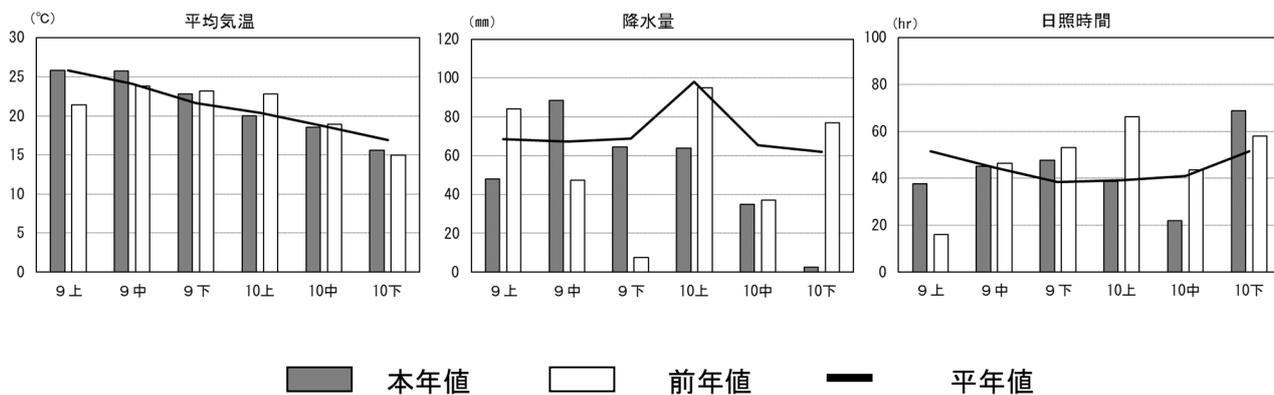
向こう1か月間の各気象要素の平年値

(11月12日～12月11日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	11.5	12.6	11.8
降水量(mm)	87.5	131.8	134.3
日照時間(hr)	149.0	139.2	146.6

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は12月20日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和4年12月20日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 キ ュ ウ リ	うどんこ病	少	12月上旬発生量：少（-） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 窒素肥料の多追肥を避ける。 発病初期から薬剤防除する。
	褐斑病	やや多	12月上旬発生量：やや多（+） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 除去した被害葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	べと病	並	12月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し、適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	菌核病	並	12月上旬発生量：並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 発病果や発病葉は速やかに施設外へ持ち出し、適切に処分する。 令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
	コナジラミ類	並	12月上旬発生量 オンシツコナジラミ：並 タバココナジラミ： やや多（+） 12月黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや少（-） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> タバココナジラミはキュウリ退緑黄化病、オンシツコナジラミはキュウリ黄化病のウイルスを媒介するため、コナジラミ類の防除は重要である。 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	やや多	12月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 ・ 発病初期から薬剤防除する。
	灰色かび病	多	12月上旬発生量 果実発病度：多（＋） 発病株率：多（＋） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。 ・ 発病果や発病茎葉は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 ・ <u>令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」</u>も参照。
	オンシツコナジラミ	並	12月上旬発生量：並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、発生初期から薬剤防除する。 ・ タバココナジラミは、黄化葉巻病を媒介する。黄化葉巻病発病株は抜き取り、適切に処分する。 ・ 施設内外の除草や防虫網の設置など耕種的・物理的防除に努める。 ・ <u>令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」</u>も参照。
	タバココナジラミ	やや多	12月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病原菌は葉先の水孔や傷口から侵入しやすいので、既発ほ場では風雨後の薬剤防除に努める。
キ ャ ベ ツ	黒腐病	並	12月上旬発生量 冬キャベツ：並 春キャベツ：並〔発生なし〕 気象予報：気温低か並（－） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病原菌は葉先の水孔や傷口から侵入しやすいので、既発ほ場では風雨後の薬剤防除に努める。
	菌核病	並	12月上旬発生量 冬キャベツ：並〔発生なし〕 春キャベツ：並〔発生なし〕 気象予報：気温低か並（－） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は速やかに抜き取ってほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 ・ 薬剤防除は、株元まで薬剤が到達するよう、ていねいに行う。 ・ <u>令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」</u>も参照。

作物名	病虫害名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	さび病	並	12月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温低か並（－） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
	べと病	並	12月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温低か並（－） 降水量並	
	ネギアザミウマ	やや少	12月上旬発生量 被害度：並 寄生株率：やや少（－） 気象予報：気温低か並（－） 降水量並	
冬レタス	菌核病	並	12月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温低か並（－） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取りほ場外に持ち出し適切に処分する。 トンネル内が過湿にならないようにする。 菌核病は令和2年度病虫害発生予報第8号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。 灰色かび病は令和3年度病虫害発生予報第8号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。
	灰色かび病	並	12月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温低か並（－） 降水量並	
イチゴ	うどんこ病	並	12月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 葉かき作業を適宜行い、切除部位を適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 葉かき作業を適宜行い、切除部位を適切に処分する。 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 令和2年度病虫害発生予報第6号P4「これから注意を要する病虫害」も参照。
	アブラムシ類	並	12月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	
	ハダニ類	少	12月上旬発生量：少（－） 気象予報：日照時間並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	ミカンハダニ	やや少	11月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温低か並（－） 降水量並	・ マシン油乳剤による越冬期防除を行う。ただし、樹勢の弱い樹では散布を避ける。
カーネーション	アザミウマ類	やや少	11月下旬発生量：少（－） 11月黄色粘着トラップ誘殺数：並 気象予報：日照時間並	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	やや少	11月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
ストック	菌核病	並	11月下旬発生量 施設ストック：並 [発生なし] 露地ストック：並 [発生なし] 前作発生量（2月下旬） 施設ストック：並 [発生なし] 露地ストック：並 [発生なし] 気象予報：気温低か並（－） 日照時間並 降水量並	・ 発病株は速やかに抜き取りほ場外に持ち出し、適切に処分する。 ・ 施設栽培では過湿にならないよう注意する。 ・ <u>令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」</u> も参照。
野菜・花き共通	コナガ	やや少	11月下旬発生量 施設ストック：並 [発生なし] 露地ストック：やや少（－） 12月上旬発生量 冬キャベツ：並 [発生なし] 春キャベツ：並 [発生なし] 11月フェロモントラップ誘殺数：やや少（－） 気象予報：気温低か並（－） 降水量並	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：12月上旬、果樹・花き：11月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			今年値	平年値	前年値	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率 (%)	7.40	13.44	9.60	
	褐斑病	発病葉率 (%)	0.20	0.29	0.00	
	菌核病	果実発病度	0.00	0.75	0.00	
	灰色かび病	果実発病度	0.00	0.23	0.00	
	"	発病株率 (%)	0.80	0.46	0.00	
	べと病	発病葉率 (%)	3.40	6.80	1.00	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.80	1.37	1.60	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.80	0.34	0.80	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	10.44	26.22	27.82	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.23	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.11	0.00	
	冬春トマト (長生、海匠)	うどんこ病	発病株率 (%)	3.60	1.20	4.80
灰色かび病		発病株率 (%)	0.80	0.04	0.00	
"		果実発病度	0.40	0.00	0.00	
葉かび病		発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
黄化葉巻病		発病株率 (%)	0.00	0.10	0.00	
アブラムシ類		成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.40	
オンシツコナジラミ		成虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
タバココナジラミ		成虫寄生株率 (%)	0.40	0.12	0.40	
ハモグリバエ類		幼虫寄生株率 (%)	0.40	0.76	0.00	
アザミウマ類		成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.80	2.40	
	黒腐病	発病度	2.00	1.63	3.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.12	0.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.22	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	タマナギンウワバ	10株当たり寄生幼虫数	0.08	0.05	0.00	
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.09	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	4.00	1.76	1.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.08	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	1.56	4.34	2.50	
	さび病	発病度	0.00	0.39	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	17.56	22.75	28.60	
	"	成幼虫寄生株率 (%)	21.78	37.56	19.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.44	0.56	1.20	
	ハスモンヨトウ	被害株率 (%)	0.00	0.16	0.80	
	シロイチモジヨトウ	被害株率 (%)	0.00	0.24	1.60	
	ネギコガ	被害株率 (%)	0.00	0.17	0.80	
	ネギハモグリバエ	被害度	5.67	1.22	6.30	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	モザイク病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	斑点細菌病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ネキリムシ類	被害株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.24	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
イチゴ (山武、海匠、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	2.12	4.09	2.82	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	3.29	4.22	2.59	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.81	0.47	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	4.94	18.08	10.59	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
温州ミカン (安房)	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	0.00	7.94	0.00	
	クワゴマダラヒトリ	被害果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.64	0.00	
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.56	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	0.00	17.64	5.60	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.22	4.44	1.45	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	12.00	34.16	15.09	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	6.16	0.00	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
ストック (安房)	ヨトウムシ類	被害株率 (%)	0.00	1.18	0.00	
	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	0.00	4.18	4.00	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.90	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	0.00	12.12	7.20	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	3.43	0.00	
	アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	6.34	0.00	

トラップ月間誘殺数 (11月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数 (頭/日)			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.5	1.5	1.0	
	ハスモンヨトウ	県内全域	14.7	20.2	16.5	
	シロイチモジヨトウ	〃	0.5	0.3	1.5	
	オオタバコガ	〃	3.0	1.2	0.9	
	タバコガ	〃	0.1	0.2	0.0	

○気象予報

12月15日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

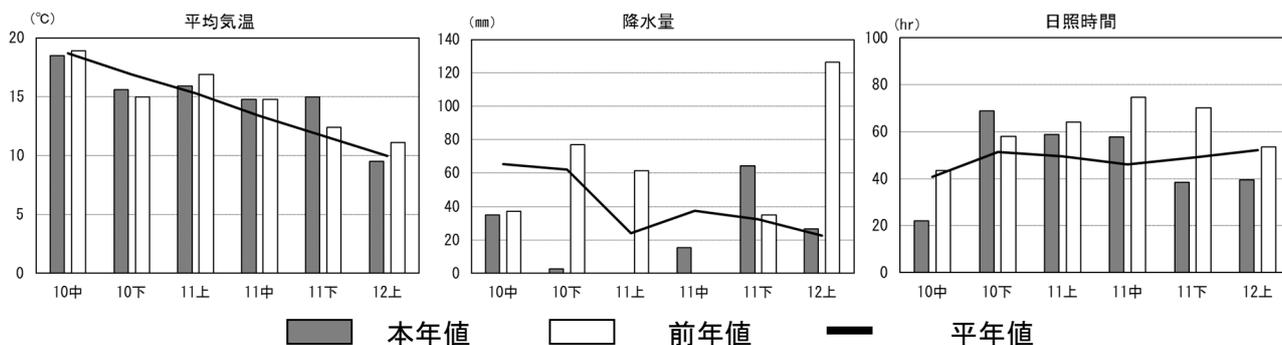
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	40	40	20
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(12月17日～1月16日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	6.9	7.5	7.2
降水量(mm)	53.4	85.2	81.4
日照時間(hr)	188.8	177.4	175.2



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は1月18日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

令和5年1月18日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	やや多	1月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 発病初期から薬剤防除する。 発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。
	オンシツコ ナジラミ	並	1月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、発生初期から薬剤防除する。
	タバココナ ジラミ	並	1月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> タバココナジラミは、黄化葉巻病を媒介する。黄化葉巻病発病株は抜き取り、適切に処分する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照。
冬 春 キ ュ ウ リ	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 発病初期から薬剤防除する。 窒素肥料の多追肥を避ける。
	褐斑病	並	1月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 除去した被害葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	べと病	並	1月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	菌核病	並	1月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 発病果や発病葉は速やかに施設外へ持ち出し、適切に処分する。 令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。

作物名	病虫害名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
キャベツ	菌核病	並	1月上旬発生量 冬キャベツ：並〔発生なし〕 春キャベツ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 薬剤防除は、株元まで薬剤が到達するように、ていねいに行う。 令和2年度病虫害発生予報第8号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。
	腐敗病	並	1月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温高（-） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 トンネル内が多湿にならないよう、換気に努める。 菌核病は、令和2年度病虫害発生予報第8号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。
イチゴ	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 発病初期から薬剤防除する。 発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。
	アザミウマ類	やや多	1月上旬発生量：やや多（+） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 令和2年度病虫害発生予報第7号P5「これから注意を要する病虫害」も参照。
	ハダニ類	少	1月上旬発生量：少（-） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 葉裏に薬剤が十分付着するようていねいに散布する。 令和2年度病虫害発生予報第6号P4「これから注意を要する病虫害」も参照。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
施設野菜共通	灰色かび病	並	1月上旬発生量 冬春トマト：並〔発生なし〕 冬春キュウリ： 並〔発生なし〕 イチゴ：並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。 発病葉、発病果は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
カーネーション	立枯病	やや多	12月下旬発生量：やや多（+） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取り、施設外に持ち出し、適切に処分する。
	アザミウマ類	並	12月下旬発生量：並 12月黄色粘着トラップ誘殺数： 並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	やや少	12月下旬発生量：やや少（-） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
ストック	菌核病	並	12月下旬発生量 施設ストック：並〔発生なし〕 露地ストック：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（+） 日照時間並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。 施設栽培では過湿にならないよう注意する。 令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
野菜・花き共通	コナガ	やや少	12月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック：やや少（-） 1月上旬発生量 冬キャベツ：並 春キャベツ：やや少（-） 12月フェロモントラップ誘殺数： やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

II これから注意を要する病害虫

春に向けてヒョウタンゾウムシ類に注意

ヒョウタンゾウムシ類（トビイロヒョウタンゾウムシ・サビヒョウタンゾウムシ）は広食性で、多くの種類の作物を加害する。幼虫により地下部が加害され、ラッカセイやニンジン、ネギなどで特に被害が大きい（写真1）。成虫は地上部を食害し、ラッカセイでは成虫の加害により葉に左右対称の特微的な食害痕を生じる（写真2）。

病害虫防除課では、千葉・印旛・君津地域の10地点で、7月上旬から9月上旬に月1回、ラッカセイの病害虫調査を実施している。この調査において、ヒョウタンゾウムシ類の被害株率（※）の平均値は、2022年の7月、8月は平年を上回り、9月は平年並となった（図）。しかし、被害株率の高いほ場もみられた。

（※）ラッカセイの地上部のみを調査し、葉に左右対称の食害痕が認められた株を「被害株」として計上している。

ラッカセイの栽培期間中に写真2のような左右対称の食害痕が認められたほ場などでは、ヒョウタンゾウムシ類が越冬している可能性があるため、次作は注意が必要である。



写真1 ヒョウタンゾウムシ類に
被害されたラッカセイの根



写真2 ヒョウタンゾウムシ類に被害された
ラッカセイの葉

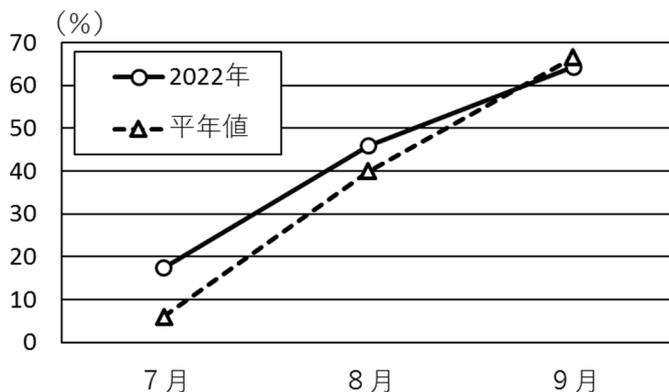


図 ヒョウタンゾウムシ類による
ラッカセイの被害株率の推移



写真3 サビヒョウタンゾウムシの
成虫

＜形態と生態＞

いずれのヒョウタンゾウムシも成虫の体長は6～9mm、体色は黒褐色から灰褐色で、背部から見た形状はヒョウタン型をしている（写真3）。幼虫は10mm程度まで成長し、体色は乳白色から黄白色で頭部は褐色であり、脚がないのが特徴である。

成虫は地表面および土中で、幼虫は土中で越冬する。越冬成虫は4月中旬頃から活動を開始するが、トンネル栽培等ではそれよりも早い時期から活動を開始することもある。

地表面などに産卵し、ふ化した幼虫は地下に潜って食害する。成長すると地中で蛹化し、羽化する。春に成虫が出現後、比較的早い時期に産卵された次世代個体は成虫で越冬し、やや遅い時期に産卵された個体は幼虫で越冬すると考えられる。なお、春先に地下部を加害するのは越冬幼虫である。

成虫は飛翔できず、歩行により移動する。

<防除法>

1 耕種的・物理的防除

(1) 前年に被害が発生したほ場で、幼虫が越冬していると考えられる場合、6月上旬まで無作付けで管理する。このことにより、幼虫は餌を得られず餓死するため、防除効果が期待できる。この場合、餌となる根などを幼虫に与えないよう、(2)の対策も同時に実施する。

(2) 広食性であり、雑草地は生息場所や越冬場所にもなると考えられるため、ほ場内外の除草に努める。

2 化学的防除

以下の表を参考に薬剤防除する。

農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

表1 ラッカセイでヒョウタンゾウムシ類に登録がある主な防除薬剤

(農薬の登録内容は令和5年1月11日現在)

薬剤名	IRACコード※1	使用量	使用時期	本剤の使用回数※2	使用方法
トクチオン細粒剤F	1B	9kg/10a	生育期(但し、収穫60日前まで)	2回以内	土壌表面散布 後土壌混和

表2 ニンジンでヒョウタンゾウムシ類に登録がある主な防除薬剤

(農薬の登録内容は令和5年1月11日現在)

薬剤名	IRACコード※1	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数※2	使用方法
アクセルフロアブル	22B	1,000	収穫前日まで	3回以内	散布
コテツフロアブル	13	2,000	収穫前日まで	2回以内	散布

表3 ネギでヒョウタンゾウムシ類に登録がある主な防除薬剤

(農薬の登録内容は令和5年1月11日現在)

薬剤名	IRACコード※1	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数※2	使用方法
コテツフロアブル	13	2,000	収穫7日前まで	2回以内	散布

※1 IRACコード：殺虫剤の作用の仕組みの分類を表すものである。害虫の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

※2 名称が異なる薬剤でも、同じ有効成分が含まれることがある。そのため、製品ラベル等を十分に確認し、含有する有効成分の種類ごとの総使用回数も使用基準を超えないようにすること。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：1月上旬、花き：12月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (海匠、長生)	萎凋症	萎凋株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	2.80	1.52	1.60	
	疫病	発病株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.12	0.40	
	〃	果実発病度	0.00	0.01	0.00	
	葉かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.13	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率 (%)	0.80	11.40	6.00	
	褐斑病	発病葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	果実発病度	0.00	0.23	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	1.03	0.80	
	〃	果実発病度	0.00	0.40	0.00	
	べと病	発病葉率 (%)	9.60	12.92	22.60	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	1.60	1.54	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	1.40	0.80	
冬キャベツ (海匠)	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.76	0.00	
	黒腐病	発病度	0.80	1.99	0.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	1.60	0.64	0.00	
春キャベツ (海匠)	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.08	0.28	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.07	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	2.40	0.70	0.00	
冬レタス (安房、君津)	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.14	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.27	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	1.39	1.60	
	腐敗病	発病株率 (%)	0.00	0.34	0.00	
イチゴ (海匠、山武、安房)	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.96	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	2.82	4.39	0.47	
	〃	発病果率 (%)	0.02	0.28	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.07	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.01	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	4.00	2.63	0.71	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.02	0.00	
カーネーション (安房)	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.94	0.34	1.65	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	6.12	23.34	10.12	
	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.40	0.00	
	立枯病	発病株率 (%)	0.80	0.48	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.24	0.80	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.13	10.91	0.44	
ストック (安房)	アザミウマ類	被害株率 (%)	4.80	15.56	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.32	2.00	1.78	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	3.78	0.00	
	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.72	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.24	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	1.00	4.22	2.00	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.52	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	10.40	18.38	8.80	
〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	4.36	0.80		
アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00		
アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	5.94	0.00		

トラップ月間誘殺数 (12月)

単位: 頭/日

種類	病害虫名	トラップ設置場所	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.3	0.7	1.0	

○気象予報

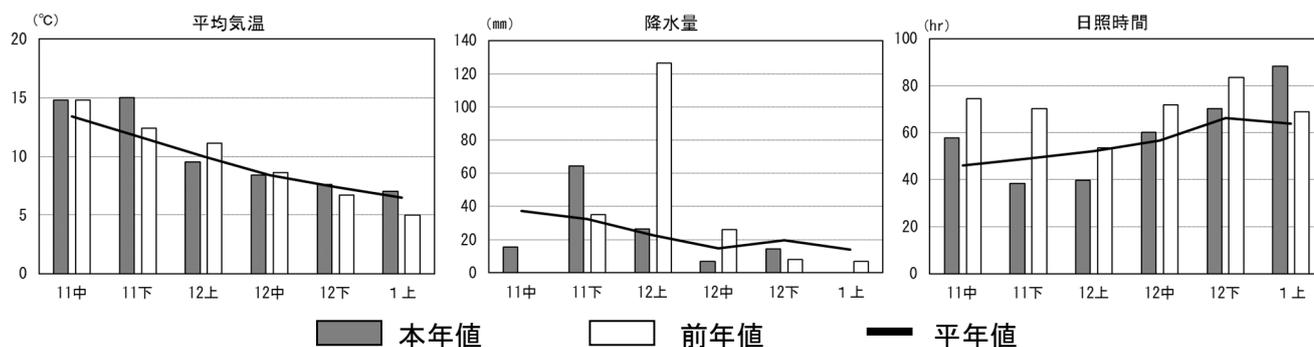
1月12日気象庁発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(1月14日～2月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	6.0	6.5	6.4
降水量(mm)	70.2	104.0	80.4
日照時間(hr)	188.0	178.0	172.8



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は3月15日です。なお、注意報等の臨時情報は、逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和5年3月15日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	イネミズゾウムシ	少	2月越冬量：少（-）	<ul style="list-style-type: none"> 箱施用剤で薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	並	2月越冬量：並	<ul style="list-style-type: none"> 成虫は5月下旬から水田に侵入し始める。加害を受けるほ場では、6月末まで効果が認められる箱施用剤の利用を検討する。 平成30年度試験研究成果普及情報「イネクロカメムシの発生生態と効果的な箱施用剤」 https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/h30_37.pdf も参照。
	ヒメトビウンカ	並	2月越冬量：並	<ul style="list-style-type: none"> イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 前年、立毛中に縞葉枯病の発生が見られたほ場では、箱施用剤で薬剤防除する。
	スクミリンゴガイ	並	冬季気温 （12～2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値） ：並 前年6月の発生量 ：やや多（+） 前年6月の被害株率：並	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県 HP、安全農業推進課のジャンボタニシ被害防止対策 https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/applesnail.html 及びチラシ「ジャンボタニシによる被害を防ぐために-春夏期」https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/a4_tirashi_harunatsu.pdf を参照。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	コナジラミ類	やや多	3月上旬発生量 オンシツコナジラミ ：並 [発生なし] タバココナジラミ ：やや多 (+) 気象予報：気温高 (+) 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、初期から薬剤防除する。 タバココナジラミについては、黄化葉巻病を媒介する。黄化葉巻病発病株は抜き取り、適切に処分する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照。
	菌核病	並	3月上旬発生量：並 気象予報：気温高 (+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分する。 薬剤防除は株元まで薬剤が届くよう、ていねいに行う。 令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
イ チ ゴ	アブラムシ類	やや多	3月上旬発生量：やや多 (+) 2月黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや多 (+) 気象予報：気温高 (+) 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 葉裏に薬剤が十分付着するようていねいに散布する。 アザミウマ類については、令和2年度病害虫発生予報第7号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
	アザミウマ類	やや多	3月上旬発生量：並 2月黄色粘着トラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温高 (+) 日照時間並	
	ハダニ類	やや少	3月上旬発生量：少 (-) 気象予報：気温高 (+) 日照時間並	
野 菜 共 通 (施 設)	うどんこ病	やや多	3月上旬発生量 冬春トマト：やや多 (+) イチゴ：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 被害葉や被害果は施設外に持ち出し、適切に処分する。 灰色かび病については、令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
	灰色かび病	並	3月上旬発生量 冬春トマト：並 イチゴ：並 気象予報：気温高 (+) 日照時間並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	黒星病	並	越冬菌密度 秋型病斑発病葉率 ：並 罹病芽率：やや少（－） 気象予報（3か月予報） ：4月の降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病芽の除去は極めて重要なので、必ず実施する。 ・ りん片脱落期直前から落花後約2週間の防除が重要である。 本年は2月以降の気温が高く、今後の気温も高くなる確率が高いことから、開花期が早まることが予想されるので、適期を逃さず防除する。
ビワ	果樹カメムシ類	やや少	チャバネアオカメムシ早期発生予測モデル：やや少（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ カメムシ類の発生量は、年次変動が激しく、地域差もあるため、地域の発生情報等も参考にする。 ・ 予測モデルについては、<u>令和4年度病害虫発生予報第7号P7「Ⅲその他の情報」</u>を参照する。
カーネーション	アザミウマ類	並	2月下旬発生量 ：やや少（－） 2月黄色粘着トラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温高（＋） 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	並	2月下旬発生量 ：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
野菜・花き共通	コナガ	並	2月下旬発生量 露地ストック ：並 [発生なし] 3月上旬発生量 春キャベツ ：並 [発生なし] 2月フェロモントラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、発生初期に防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：2月中旬、野菜：3月上旬、果樹：2月、花き：2月下旬）

作物名（調査地域）	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ（県内全域）	イネミズゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.06	1.44	0.10	前年6月調査 前年6月調査
	イネゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.03	0.24	0.17	
	イネクロカメムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.06	0.08	0.03	
	ヒメトビウンカ	畦畔3m吸い取り成幼虫数	2.23	1.70	0.12	
	ツマグロヨコバイ	畦畔3m吸い取り成幼虫数	0.37	1.63	0.16	
	スクミリンゴガイ	被害株率（%）	1.26	1.17	2.41	
		1m当たり貝数	0.44	0.21	0.28	
冬春トマト （海匠、長生）	萎凋症	萎凋株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率（%）	2.40	1.88	7.60	
	灰色かび病	発病株率（%）	1.20	3.12	0.40	
		果実発病度	0.00	0.23	0.00	
	葉かび病	発病株率（%）	0.00	0.04	0.00	
	モザイク病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率（%）	0.00	0.20	0.10	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率（%）	0.00	0.04	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率（%）	0.40	0.12	1.20	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.16	0.00	
アザミウマ類	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00		
春キャベツ（海匠）	菌核病	発病株率（%）	0.80	1.52	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.12	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	1.60	0.80	0.80	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.19	0.00	
イチゴ （海匠、山武、安房）	うどんこ病	発病株率（%）	1.18	1.55	0.71	
		発病果率（%）	0.03	0.13	0.02	
	灰色かび病	発病株率（%）	2.59	2.53	0.71	
		発病果率（%）	0.21	0.32	0.04	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	5.88	3.02	0.71	
		黄色粘着トラップ誘殺数	7.97	4.42	2.16	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率（%）	0.71	0.96	4.24	
		黄色粘着トラップ誘殺数	3.62	5.49	3.13	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率（%）	7.29	33.45	11.06	
ナシ（県内全域）	黒星病（秋型病斑）	発病葉率（%）	1.97	1.92	2.42	前年10月調査
	黒星病	罹病芽率（%）	0.29	1.44	0.43	
	輪紋病	発病度	0.00	0.16	0.00	
	卵越冬ハダニ類	産卵数	0.00	0.41	0.00	
	ナシチビガ	越冬蛹数	0.00	0.01	0.00	
カーネーション （安房）	萎凋病	発病株率（%）	0.00	0.76	0.00	
	立枯病	発病株率（%）	0.80	1.30	1.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.36	0.80	
	アザミウマ類	被害株率（%）	0.80	10.72	0.00	
		黄色粘着トラップ誘殺数	0.71	2.88	1.07	
	ヨトウムシ類	被害株率（%）	0.00	0.00	0.00	
ストック（安房）	コナガ（露地）	被害株率（%）	1.33	13.81	14.40	
	コナガ（露地）	幼虫寄生株率（%）	0.00	1.31	0.00	
	コナガ（施設）	被害株率（%）	0.00	1.63	0.00	
	コナガ（施設）	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類（露地）	成幼虫寄生株率（%）	0.00	2.03	0.00	
	アブラムシ類（施設）	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	

*黄色粘着トラップ誘殺数：438cm²の黄色粘着トラップに30日間に誘殺された個体数

トラップ月間日平均誘殺数（2月）

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（頭/日）			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.2	0.2	0.2	

○気象予報

3月9日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

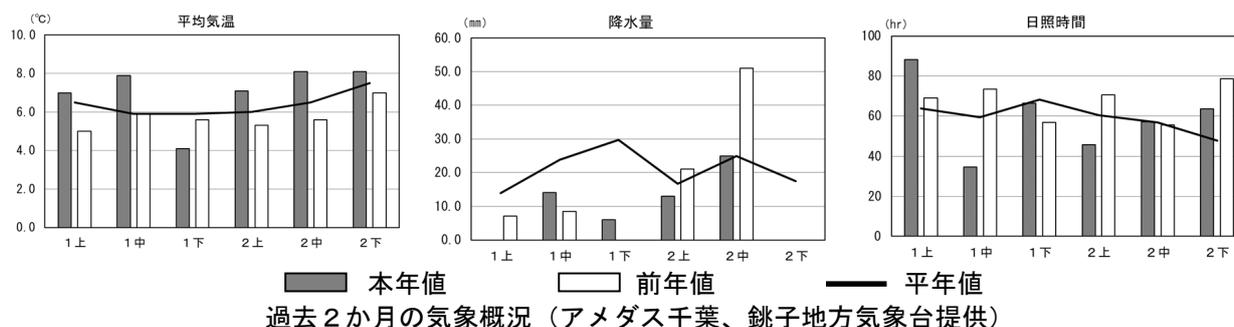
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(3月11日～4月10日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	11.1	11.0	11.4
降水量(mm)	111.9	142.9	162.0
日照時間(hr)	175.1	178.4	173.7

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は4月19日です。なお、注意報等の臨時情報は、逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和4年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和4年10月26日
千葉県農林総合研究センター長

アズキさび病の県内初発生について

1 病害名：アズキさび病

2 病原菌：*Uromyces phaseoli* var. *adzukiicola*

3 作物名：アズキ

4 発生経過

- (1) 令和4年10月上旬に、県北東部においてアズキの葉が枯れる症状が発見され（写真1）、管轄農業事務所を通じて千葉県農林総合研究センターに診断依頼があった。
- (2) 同センターの病理昆虫研究室で調べた結果、特有の胞子が確認され（写真2）、アズキさび病と診断された。県内のアズキでは初めての確認であった。
- (3) 周辺のアズキほ場への発生拡大は確認されていない。

5 国内での発生状況

本病は、アズキ主産地である北海道等におけるアズキの一般的な病害である。

6 病徴

播種直後の6月頃から発病し始め、発病初期には葉に黄白色の斑点が生じ、発病が進むと赤褐色の膨れた小粒点となる。さらに、これらの小粒点が成熟すると鉄さびのような粉が出る。発生部位は葉と茎だが、主に葉に発生する。本病が激発すると葉が枯れて落ちるため子実が肥大しない。

7 病原菌

担子菌類サビキン目に属する植物の絶対寄生菌（生きた植物からの養分供給が無いと増殖できない）である。同種寄生種（1種だけの宿主に寄生）のため、アズキ以外には寄生しない。6月頃から、さび胞子、夏胞子により感染が拡大し、秋になると冬胞子を形成し、罹病残渣で越冬する。



写真1 罹病したアズキの葉



写真2 病原菌の冬胞子（顕微鏡写真）
長径（突起から）26 μm 短径 19 μm
※ 1 μm （マイクロメートル）= 1/1000mm

* 写真1、写真2ともに千葉県農林総合研究センター原図

8 防除対策

- (1) 越冬胞子の影響を避けるため罹病残渣をほ場外へ持出し、適切に処分する。また、発病が見られたほ場ではアズキの連作を避ける。
- (2) 開花期から成熟期に登録のある薬剤を散布する（下表参照）。

表 アズキさび病に登録のある薬剤（例）（令和4年10月18日現在）

薬剤名 [FRACコード]	使用時期	使用回数	10a当たり 使用量	希釈倍率	使用方法	同じ成分を含む 農薬の使用回数
アミスター20フロアブル [11(C3)]	収穫7日前まで	3回以内	60～200ℓ	2000倍	散布	3回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤 [11(C3)]	収穫7日前まで	3回以内	100～300ℓ	2000倍	散布	3回以内
カンタスドライフロアブル [7(C2)]	収穫7日前まで	3回以内	100～300ℓ	1500倍	散布	3回以内
カナメフロアブル [7(C2)]	収穫前日まで	4回以内	100～300ℓ	4000倍	散布	4回以内
ミリオネアフロアブル [7(C2)]	収穫前日まで	4回以内	100～300ℓ	4000倍	散布	4回以内
グリーンダイセンM水和剤 [M03(M)]	収穫30日前まで	3回以内	100～300ℓ	500倍	散布	3回以内
ジマンダイセン水和剤 [M03(M)]	収穫30日前まで	3回以内	100～300ℓ	400倍	散布	3回以内
グリーンペンコゼブ水和剤 [M03(M)]	収穫30日前まで	3回以内	100～300ℓ	400倍	散布	3回以内

※FRACコードは薬剤の系統を表す。耐性菌発達抑制のため同一系統の薬剤の連用は避ける。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和4年度病害虫発生情報第1号

令和5年3月3日
千葉県農林総合研究センター長

ウスモンミドリカスミカメによるレタスへの加害確認について

1 害虫名：ウスモンミドリカスミカメ

2 学名：*Taylorilygus apicalis*

3 作物名：レタス

4 発生経過

- (1) 令和4年12月上旬に、県南部においてレタスへの害虫の食害と見られる被害が発見され、管轄農業事務所を通じて千葉県農林総合研究センターに診断依頼があった（写真1、2）。
- (2) 被害レタスほ場及びその隣接雑草地並びにレタス出荷作業所で採取したカメムシ成虫各1～10数頭について、同センターが千葉県立中央博物館動物学研究科に同定を依頼したところ、令和4年12月27日に全てウスモンミドリカスミカメと同定された（写真3）。
- (3) さらに、同センター暖地園芸研究所生産環境研究室において、捕獲したウスモンミドリカスミカメ成虫をポットに栽植したレタスとともに飼育して再現試験を行った結果、令和5年2月下旬までに同虫がレタスを食害する状況を現認し（写真4）、一連の食害を同虫によるレタス加害と確認した。

5 形態及び生態等の特徴

(1) 分布

日本国内では、北海道以外に広く分布し、世界の温暖帯～熱帯にも広く分布する。

(2) 寄主植物

主にキク科多年生草本類

(3) 生態及び形態

本種は、キク科雑草に寄生し、成虫になると小ギクやレタス等他の植物（主にキク科）へ移動し、これらを加害すると考えられる。

体長4.5～6mm。体色は淡い黄緑色で、光沢は弱い。著しい色彩変異を持つ。

(4) 被害

加害されたレタス葉では、生育に伴い吸汁痕が穴状やかすり状となる（写真1、2）。

6 防除対策

(1) 現時点では、レタスの本虫に対する登録農薬は無い。

(2) レタス出荷時は選別を徹底し、被害株を取り除く。

(3) 周辺のキク科雑草（セイタカアワダチソウやヨモギ等）は発生源となるので、花をつける前に除草に努める。レタス周辺の開花中のキク科雑草を除草すると、本虫がレタスほ場へ飛来することがあるので、レタス定植後のキク科雑草の除草には注意が必要である。



写真1 レタスへの食害(かすり状)



写真2 レタスへの食害(穴状)



写真3 捕獲した成虫



写真4 再現試験におけるレタスへの食害

※写真は全て千葉県農林総合研究センター原図

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町 180 番地 1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

